

(第六類 第二十四號)

第六十四回帝國議會  
衆議院

辯護士法改正法律案外一件委員會議錄(速記)第四回

付託議案

辯護士法改正法律案(政府提出)  
出)

(三一九)

昭和八年三月十三日(月曜日)午前十一時十  
五分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 星島 二郎君

理事 小野寺 章君 理事 作田高太郎君

磯部 尚君 牧野 賤男君

宮澤 清作君 松木 弘君

紅露 咨君 天辰 正守君

小林 鑄君 内藤 正剛君

横山金太郎君 伊禮 肇君

出席國務大臣左ノ如シ

司法大臣 小山 松吉君

出席政府委員左ノ如シ

司法政務次官 八並 武治君

司法省刑事局長 木村 尚達君

司法書記官 黒川 涉君

文部政務次官 東郷 實君

委員長ノ許可ヲ得テ出席シタル者左ノ如シ

社會局書記官 藤野 恵君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

辯護士法改正法律案(政府提出)

法律事務取扱ノ取締ニ關スル法律案(政  
府提出)

○星島委員長 ソレデハ是ヨリ開會致シマ  
ス、前會ニ引續イテ質疑ニ移リタイト思ヒ  
マズ

○内藤委員 辯護士ノ資格ニ關スル問題デ  
アリマスガ、改正案ノ二條ニ牽聯シタ問題  
トシテ御尋シタイト思ヒマス、構成法ノ六  
十五條ニ依レバ、帝國大學ノ教授ニシテ、三  
年以上其職ヲ勤メタル人ハ、判事又ハ檢事  
ニ採用ガ出來ルト云フコトニナツテ居リマ  
ス、或ハ又辯護士ニモナレルト云フコトデ  
アリマス、今日官私學統一サレタル場合ニ  
於テ、公私立ノ大學ノ教授ニシテ、所定ノ  
學科ヲ全部教ヘテ居タト云フヤウナ人ニ  
對シテハ、辯護士ノ資格位ハ御與ヘニナツテ  
モ宜カラウト思ヒマスルガ、構成法ノ規定  
ノ上カラ言フト、判檢事ダケハ帝國大學ト  
ナツテ居リマス、其人ハ辯護士ニナレルト思  
ヒマスガ、私學ノ人ハナレント思ヒマス、  
帝國大學以外ノ教授ニモヤハリ辯護士位ナ  
資格ヲ與ヘテ私ハ宜クハナイカト思ヒマス  
ガ、當局ノ御意見ハドウデアリマセウカ

○木村政府委員 只今御話ノ構成法ノ規定  
ニハ、帝國大學ノ法科教授ダケニナツテ居リ  
マシテ、私立大學ノ教授ハ拔ケテ居ルガ、  
ソレヲ加ヘテハドウカト云フ御話デアリマ  
スガ、是ハ私立大學が非常ニ發達致シマシ  
テ、殆ド官立ト差異ノナイヤウニナツタ場合  
ニハ、考慮シテ宜イト思ヒマスガ、現在ノ  
狀態デハ、良イ人モ中ニハ勿論居リマスケ  
レドモ、之ヲ法文ニ規定スルト、總テノ人  
ガソレニ入ルノデアリマス、サウスルト現  
在ノ實情カラ見ルト、少シ行過ギテ居ルノ  
デハナイカ、サウ云フ考デ之ヲ加ヘナイ次  
第デアリマス

○内藤委員 今ノ御話デハ、マダ其事情ニ  
達シナイト云フ御意見デアリマスガ、意見  
ノ相違カモ分リマセヌケレドモ、モウ一ツ  
伺ツテ置キタインデアリマスガ、サウスルト  
現在ノ制度ノ下ニ於テハ、私立大學ノ教授  
ハ申シマセヌガ、只今私立大學ノ中心ニナツ  
テ居ル所ノ教授ハ、大概帝國大學ノ教授ヤ  
判檢事等ガ行ツテ居ルノデアリマシテ、所謂  
私立大學ノ教授ハ、非常ニ數ガ少ウゴザイ  
マス、數ガ少イ上ニ、斯ウ云フコトヲ申シ  
テ善イカ惡イカ分リマセヌガ、私立大學ヲ  
御出ニナツテカラ、一二年外國ニ御出デニ  
ナツテ、御歸ニナリマスレバ、直チニ大學デハ  
人ガ足リマセヌカラ、教授ニスルト云フヤ

出席政府委員左ノ如シ

○内藤委員 今ノ御話デハ、マダ其事情ニ  
達シナイト云フ御意見デアリマスガ、意見  
ノ相違カモ分リマセヌケレドモ、モウ一ツ  
伺ツテ置キタインデアリマスガ、サウスルト  
現在ノ制度ノ下ニ於テハ、私立大學ノ教授  
ハ申シマセヌガ、只今私立大學ノ中心ニナツ  
テ居ル所ノ教授ハ、大概帝國大學ノ教授ヤ  
判檢事等ガ行ツテ居ルノデアリマシテ、所謂  
私立大學ノ教授ハ、非常ニ數ガ少ウゴザイ  
マス、數ガ少イ上ニ、斯ウ云フコトヲ申シ  
テ善イカ惡イカ分リマセヌガ、私立大學ヲ  
御出ニナツテカラ、一二年外國ニ御出デニ  
ナツテ、御歸ニナリマスレバ、直チニ大學デハ  
人ガ足リマセヌカラ、教授ニスルト云フヤ

ウナコトニナッテ居ルダラウト思ヒマス、此私立大學ノ教授ノ養成ノ方法ガ、今少シ完全ニナリマシテ、大學ヲ出テ二三年外國ニ行ッテ來レバ、直チニ教授ニスルト云フヤウナコトガ出來ナクナッテ、實力デ競爭シテ教授ニナリ得ルヤウナ時代ガ參リマシタナラバ、其時ハ私共十分ニ考慮シテ宜イ問題ト思ヒマスガ、現在ノ實情ニ即シテ考ヘマスト、辯護士ニシマシテモ、判檢事ニシマシテモ頗ル重大ナ職務ヲ行ヒマスカラ、少シ行過ギハシナイカ、サウ云フ考慮ノ下ニ此度ハ入レナカッタノデアリマス

テ見レバ禁錮ニ處セラレタカラト云フ單ナ  
ル理由デ、其職業ヲ奪ッテシマフト云フコ  
トハ、非常ニ重イ刑ヲ科シタ結果ニナル、  
其點ハ不都合ナ結果ニナリハセヌカト思  
フ、ズット何年トナク辯護士ヲヤッテ居ツテ、  
偶々選舉違反ニ依ッテ禁錮ノ刑ニ處セラレ  
タ云フヤウナ場合ニモ、其職業ヲ奪ッテ  
シマフ、斯ウ云フヤウナ非常ニ犯罪其モノ  
ト、刑ノ結果トノ釣合ガ取レナイヤウナコ  
トニナルノハ明カダト思ヒマスガ、此點ハ  
尙ホ御考慮爲サル餘地ハナインデアリマス  
カ

○小野寺委員 私ハ只今ノ御答辯ニ満足ハ  
出来ナイ、ソレハ高等試験令ニアル、或ハ  
他ノ法令ニアルカラ純理ニ立脚シテ考へ、  
又社會的ノ影響等モ考へテ、ソレデ正シイ  
ト思フタコトデモ、他ノ法令ニサウ云フ規  
定ガアルカライカヌト云フ御答辯デハ満足  
出来ナイノデス、高等試験ヲ受ケル爲ニ色  
色ナ制限ガアル、其制限ニ依ツテ受ケル資格  
ヲ取ツタ其時ノ條件ト、ソレカラ資格ヲ取ツ  
タ後ニ於テ、多年職業ヲ營ンデソレデ生活  
シテ居ツタ、所ガ偶、輕微ナ犯罪ニ依ツテ所  
罰セラレタ、ソコデ一生ノ職業ヲ奪ツテシ  
マフト云フコト、ハ、一體觀念上モ同一デ  
ハナイノデス、デスカラ高等試験令ヲ持ツ  
テ來テ、職業トシテ何十年トナクヤツタ人  
ノ一生ノ職業ヲ奪ツテシマフト云フコト、ハ、全然違  
はナケレバナラヌ性質ノモノデアル、他ノ  
法令ノ振合ト云フコトヲ考ヘナイデ、實際  
辯護士トシテノ社會的ナ立場モ御考顧ヒタ  
イ、官吏ヤ公證人トハ違フ、ソレカラ犯罪

必シモ擯斥スルト云フ譯ノモノデハナイト  
思フノデス、現ニ禁錮ノ刑ニ處セラレタ人  
デ辯護士ノ職務ヲ執ッテ、立派ニ信用ヲ維持  
シテ居ル人ハ幾ラモアルノデス、實例ハ私  
ガ申上ゲナクテモ大臣ノ御承知ノ通リデア  
ル、サウシテ見ルナラバ、其人ガアル爲ニ  
辯護士ノ信用ヲ傷ヅケルト云フヤウナコト  
ハ、罪質ニ依ツテハナイ、禁錮ノ刑ニ處セ  
ラレタト云フ一事ノミニ依ツテ擯斥ヲ受ケ  
ルト云フコトハナイ、殊ニ禁錮刑ヲ科スル  
場合ニ於テハ、殆ド破廉恥罪デハナイノデ  
ス、破廉恥罪以外ノ刑ニ對シテハ、社會ハ  
決シテ大臣ノ御考ニナルヤウニ非常ナ品位  
ヲ傷ヅケタモノトハ國民ヘ思ッテ居ナイ、ソ  
レデ國民ノ觀念モ考ヘテ見、一方多年職業  
トシテヤツテ居タ其人ノ職業ヲ奪ッテ、其後  
ノ生涯ヲ葬<sup>フ</sup>テシマフコトハドウシテモ宣  
シクナイ、禁錮刑ヲ科スル特定ノ罪ニ付テ  
特例ヲ設ケル位ノ必要ハアリハセヌカト思  
フノデアリマスルガ、其點ハ如何デアリマ  
スカ

業務ニ從事シテ居リマス者ガ、犯罪ヲシタ  
場合ニ於テ禁錮ニ處セラレタ、ソレニ依ツ  
テ辯護士タル資格ヲ直チニ剝奪スルト云フ  
コトハ、酷デハナイカト云フヤウナ御趣意  
カラ出タ御議論ノヤウデアリマスガ、其點  
當局ハ餘程考ヘテ居ルノデアリマス、ソレ  
ハ御承知ノ通り實際ニ於テハ、今日ノ司法  
當局ハ餘程考ヘテ居ルノデアリマス、ソレ  
デ甚ダ申シ惡イノデスガ、近來度々辯護士  
ガ告訴ヲサレテ居リマスケレドモ、檢事ノ  
起訴シタ事件ト云フモノハ極メテ少數デア  
リマス、サウ云フ所デ當局ノ遣方ヲ御信用  
ヲ下サッテ、實際ノ問題ハ餘リ御心配ナイ  
ト云フコトニ、御願スルコトハ出來マスマ  
イカト思ヒマス

トハ成タケ避ケタイト思ッテ居ルノデアリ  
マスガ、兎角色々ナ批評ヲスル者モアル場  
合ニ、辯護士ガ又起訴サレタ、斯ウ云フコ  
トガアツタト云フコトハ、司法ノ事務ノ取扱  
ニモ影響ヲ及ボスコトデアリマスカラ、此  
方針ハ多年司法當局ガ保持シテ居ルノデア  
リマス、ソレダケ申上ゲテ置キマス、辯護  
士ノ業務上ノ犯罪事件ト云フモノハ調ベタ  
モノガアリマスガ、餘リ是モ發表スルノハ  
工合ガ惡イノデスガ、御必要ナラバ申上ゲ  
マスガ、是ハ要リマスマイ

○小野寺委員 サウシマスト、此前ハ幾ラ  
カ餘地ノアルヤウナ御話デシタガ、今度ハ  
餘地ガナイヤウナ御話ニナリマスガ、取扱  
ノ方ニ信賴シテ、委シテ吳レト云フ御話ニ  
伺ッテ宜シウゴザイマスカ

○小山國務大臣 之ヲ改メルコトハ困難デ  
アルト申上ゲテ、取扱上ニ付テノ御信賴ヲ  
得レバ、此御信賴ニ對シテハ、十分慎重ニ  
取扱ヲスル積リデゴザイマス

○小野寺委員 只今申上ゲタ禁錮刑ニ處セ  
ラレタ者ノ、罪ノ種類ヲ分類シタノヲ一ツ  
材料トシテ御出シヲ願ヒタイ、御要求ヲ申  
上ゲマス、ソレカラ此前ニ牧野君ニ對スル  
御答ニハ、第二號ノ三年ト云フノハ酷イカ  
ラ、二年ニシテ貰ヒタイ、斯ウ云フ趣意デ

質問ヲサレテ、ソレハ辨理士法ノ釣合上イ  
カヌト云フヤウナ御答デスガ、此點ニ關ス  
ル議論ガ辨理士法制定ノ際ニ起ツタ時ニ、懲  
戒委員ハ半分ヲ辨理士側ノ方カラ出ス、斯  
ウ云フコトニ致シマシタ結果、懲戒ノ方デ  
以テ十分ニ此方針ガ包含出來ル、ヨク／＼  
デナケレバ懲戒ニ行カヌ、斯ウ云フ建前ニ  
ナツタモノダカラ、ソコデ又三年ト云フコト  
ニ折合ガ付イタノデアル、斯ウ云フコトヲ  
申シテ居ルノデス、果シテサウ云フ事實デ  
アツタトスルナラバ、懲戒委員ノ方ヲ御考ニ  
ナル餘地デモ御有リニナレバ格別デスケレ  
ドモ、然ラザレバ二年ト云フ所ニ修正ヲ致  
シタイト云フ吾々ノ希望デアリマスガ、此  
點ニ對スル大臣ノ御考ハ如何デアリマス  
カ

○小山國務大臣 緯護士法ノ懲戒ノ手續ハ五十三條ニ依リマシテ、「緯護士ノ懲戒ハ其ノ所屬緯護士會ノ地域ヲ管轄スル控訴院ニ於ケル懲戒裁判所之ヲ行フ」トアリマスカラ、ドウモ御趣意ノヤウナコトハ只今ノ所デハ考ヘラレナイノデス、御尋ノ三年ト云フコトハ是ハ御承知デアリマセウガ、緯護士法改正委員會デハ、此年限ヲ大分研究シマシテ、サウシテ一應二年トナッテアッタノヲ、他ノ法律ノ關係上司法省案ハ三年ト改メタノデアリマス、ソレハ前回申上げマシタヤウニ、辨理士法ノ第五條第四號、計理士法ノ第四條ノ第五號ト云フヤウナ、辯護士トハ違フ業務デアリマスケレドモ、同ジヤウナ風ニ見ラレテ居ル、新シイ法令ニ於テ、三年ト決メテアルノデアリマスカラ、辯護士法ダケヲ二年トシマスト、現ニ第五條ノ第二號ノ文句自體カラ工合ガ惡イ、「辨理士法若ハ、計理士法ニ依リ業務ヲ禁止セラレタル者」云々ト云フコトデハ、是ハ三年トナラナケレバナラヌコトニナリマスカラ、三年ト決メタ次第アリマス

ガ、辨理士法ニ於テハ、辨理士ノ半數ガ懲  
戒委員ニ入ル、辨護士法ニ於テハ、全然サウ  
ニ云フ建前ニナツテ居ナイ、斯ウ云フ點ヲ考慮  
ニ入レラレ、バ、多少茲ニ條件ガ違フノデ  
スカラ、年限ノ上ニ考慮ヲ拂フ餘地ガアル  
ト考ヘナケレバレバナリマセヌガ、此點ヲ  
申上ゲテモ同一ノ御答辯ダラウト思ヒマス  
カラ、其點ハ其程度ニシテ置キマス  
ソレカラ第六條第二項ノ點デスガ、日本  
人デ外國ノ辨護士タル資格ヲ有ツテ居ル、ソ  
ト云フヤウナモノニ付テハ、之ヲ排斥サレ  
テ居ル譯デアリマス、其排斥ヲ爲サッタ理由  
ヲ承リタイ

ケレドモ、唯是ハ外國ノ辯護士タル資格ヲ、日本人ガ取ツテ居タト云フ關係ニ過ギナインデアッテ、外國ノ資格ヲ認メテ日本デ職務ヲ行ハシムルト云フ點ハ、全然同一デアラネバナラヌト思フ、ソレヲ日本人タルガ故ニ之ヲ排斥スルト云フノハ、一寸是ハ相互主義ニ觸レナイデハ解決ノ出來ナイ問題デアリマセウ、出來ナイ問題デアリマセウケレドモ、何モ日本人デ外國ノ辯護士タル資格ヲ有シ、日本ニ來テサウシテ外國人相手ニ仕事ヲスルト云フノヲ、否認スル必要ハ少シモナイト思フ、日本ノ立法トシテ此點ヲ認メタ所デ相互主義ニ反スルコトガ甚ダシイ、立法上ノ非常ナ缺陷ニナルト云フヤウナモノヂヤ全然ナイト私ハ考ヘル

タル資格ハアルガ、日本ノ辯護士タル資格ヲ有タナイン人デアル、外國語ハ出來ルダラウ、又其外國ノ辯護士ダト言ッタ所デ、御承知ノヤウニ英國ノ辯護士ト、亞米利加邊ノ辯護士トハ大分違ヒマス、外國ト言ッテモ色々々ノ國ガアリマス、隨分外國デハ簡単ニ辯護士ノ資格ヲ貰ヘル國モアルノデアリマス、サウ云フ話ガアリマシテ、矢張是モ原案ノヤウナ程度ニマデ之ヲ制限サレタ次第デアリマス

○小野寺委員 勿論私ノ申上ゲルノハ、第六條ノ一項ノ「外國ノ辯護士タル資格ヲ有スル外國人ハ相互ノ保證アルトキニ限り司法大臣ノ認可ヲ受ケ外國人又ハ外國法ニ關シ第一條ニ規定スル事項ヲ行フコトヲ得」斯ウ云フノデスカラ、只今ノ大臣ノ御答辯ノ通リニシマシテモ何モ弊害ハナイ、日本人ナリ、外國人ヲ相手ニ仕事ヲ行フ、斯ウ云フヤウナ結果ニナルノデアリマスガ、只今ノ御答辯デハ全然問題ノ中心ニ觸レナイドウシテモ了解ガ出来ナイ譯ナノデアリマスガ、是ハ御考ヘノ余地ハゴザイマセヌカ

○小山國務大臣 今ノ所一寸考ヘル餘地ハ  
ゴザイマセヌ  
問題デアルト思ヒマスガ、第十八條ノ問題  
デスガ「辯護士ノ事務所ハ所屬辯護士會ノ  
地域内ニ之ヲ設クベシ辯護士ハ如何ナル名  
義ヲ以テスルモ二個以上ノ事務所ヲ設クル  
コトヲ得ズ」司法省デモモウ既ニ御分リニ  
ナッテ居ルコト、存ジマスガ、田舎ノ不便  
ナ區裁判所ニ於キマシテハ、辯護士ハ常住  
シテ居ナイ、ソコデ出張事務所ヲ置イテ、  
事務員デ間ニ合セテ置クト云フ實情デアリ  
マス、東京ノヤウナ所ハ、モウ辯護士ガ有  
過ギテ困ルト云フコトニナッテ居ルガ、一體  
辯護士ハ職業ノ性質カラ醫者ノヤウニ普遍  
的ニ各地ニ置ケナイヤウナ恰好ニナッテ居  
ル、此際全然無條件ニ規定以上ノ事務所ヲ  
設クルコトヲ得ナイト云フコトニナルト、  
田舎ノ區裁判所デ辯護士ガ常住シテ居ッテ  
モ、生活ノ出來ナイヤウナ所ニハ、辯護士  
ハナイト云フコトニナル、辯護士ガナケレ  
バ辯護士ノアル所マデ行ッテ辯護士ヲ頼ン  
デ來レバ宜イヂヤナイカ、單純ニ考ヘレバ  
サウ云フ風ニ考ヘラレルデアリマスガ、併  
シサウ云フ非常ニ不便ナ所カラ辯護士ノ居  
所所マデ行ッテ、澤山ノ費用ヲ使ッテ、サウ

シテ賴ンデ來ル程ノ事件ハ區裁判所ニハ稀  
デアッテ、腰掛デ直グ出來ルヤウナ小イ事件  
ガ多イ、ソレヲ處理スル場合ニハ、無論三百  
取締ノ規定ガアルノデアリマスカラ、三百ノ  
方ニハ相談モ出來ナイ、辯護士ヲ賴マナケ  
レバナラヌ、賴ムニハ非常ナ費用ト手數ト  
ヲ要スル、斯ウ云フコトニナリマシテ、辯護  
士ノ事務所ヲ全然絶對的ノ制限ノ下ニ置ク  
ト云フコトハ、日本ノ現在ノ實情ニ副ハナ  
イ所ノ立法デアルト謂ハナケレバナラヌ、  
私ハ勿論辯護士ノ事務所ヲ二個以上持ッテ、  
サウシテゴタノースルコトハ宜クナイト云  
スケレドモ、事實上行ハレナイ所ハ困ル、  
非常ナ不便ガ茲ニ起ツテ來ルニ相違ナイ、結  
局三百ヲ禁止シテ居ナガラ、認メナケレバ  
ナラヌト云フ結果ニ陥ツテ來ルニ相違ナイ  
ト思フ、ソレ故ニモット辯護士ガ充實ヲシテ  
——充實シテハ居ルノデアルガ、矢張辯護  
士ノ居ラナイ所ガアル、是ガ普遍的ニ居ル  
ヤウニナツク時代ニハ、此法規デ差支ナイ、  
ケレドモ、ソコマデ行ク中間ニ於テハ、何  
カ是デハ私非常ナ不都合ガ起ルト思フ、私  
ノ郷里ノ盛岡ノ方デモ辯護士ノ居ナイ所ガ  
大分アリマス、サウ云フ譯デアリマスカラ、  
ドウゾ此點ハ經過的ノ規定ヲ一つ茲ニ挿入

シタ方ガ宜クハナイカ、斯ウ考ヘル、或ハ  
地域のニ何カ特殊ノ取扱ノ方法ヲ考ヘル、  
何カシナケレバ實際仕事ハ出來ナイ、斯ウ  
云フコトニナルト思フ、御意見如何デスカ  
○小山國務大臣 其點モ辯護士諸君ガ、辯  
護士法改正調査委員會デ大分御研究ニナッ  
タノデアリマスガ、丁度辯護士法改正委員  
會ノ案モ、「辯護士ハ如何ナル名義ヲ以テス  
ルモ二個以上ノ事務所ヲ設タルコトヲ得  
ズ」ト云フコトニナリマシタ、是モ先回モ  
申上ゲマシタヤウニ、要スルニ代書人ガ辯  
護士ノ資格ヲ有タズシテ、辯護士ノ業務ヲ  
執ルト云フヤウナコトヲ防グ爲メデアリマ  
ス、ソレカラ地方ニ依リマスト、辯護士ガ自  
分ノ名義ニ依ッテ辯護士事務所ヲ設ケテ居  
リマスケレドモ、一向其處ニ行カナイ、詰  
リ所謂三百ノ跋扈ト云フコトハ、事務所ヲ  
二個以上持ツテ居リマス爲ニ跋扈ガ行ハレ  
ル譯デアリマス、ソレヲ防グ趣旨デ斯ウナッ  
タ譯デアリマス、小野寺君ノ言ハレル山間  
僻地ノ區裁判所ナドデ差支ガアルト云フ  
コトハ、或ハサウ云フ事モアルカモ知レマ  
セヌガ、其意味デ此條文ヲ改メルト云フコ  
トハ、所謂三百ノ跋扈ヲ防グト云フ趣意カ  
ラハ、ドウモ御同意ヲ致シ兼ネルノデアリ  
マス、隨分酷イ人ニナリマスト、名前ダケ

貸シテ置イテ、其處へ顔ヲ出サナイ辯護士三百ガ一人デ、今日ハ先生ハ御留守ニアリマスト言<sup>フ</sup>テ、毎日々々仕事ヲシテ居ル、斯ラ、只今ノ所デハ此條文ハ改メルコトハ適當デナイ、改メナ一方ガ宜イト思フノデアリマス

○小林委員 議事進行ニ付テ動議ヲ提出致シマス、今質問ヲ聽イテ居リマスト、チヨイイカ飛ビカ飛ビデハアリマスケドレモ、殆ド各條的ニナツテ居リマス、五條、六條、十八條、二十條ト云フヤウニ質問ガ出テ居リマスガ、是等ノ條文ニ付テ他ノ委員カラモ、關聯シテ質問致シタイコトガ可ナリアラウト思フノデアリマス、一々關聯シタ事項ニ付テ質問ヲ御許シニナツタ方ガ、議事ノ進行ノ上ニ早クハナイカト思フノデアリマス、又同ジ事ヲズット繰返スコトニナリマスト、如何カト思ヒマスガ……

○小野寺委員 私モ只今ノ議事進行ニ關聯シテアリマスガ、關聯シタ質問ハ、一昨日デアツカ一松君カラモサウ云フ話ガアツカノデスガ、要スルニ質問ニ關聯シタル質問ハ、當然發言ヲ求メレバ許サルベキモノト

考ヘル、今ノ小林君ノ動議ハ一箇條毎ニ此點ニ關聯シタル質問ハナイカト云フコトヲ、委員長ガ一々念ヲ押セト云フ御趣意ナラバ、意味ガアルト思フガ、議事法ノ上カラ申セバ、問題ガ起<sup>ツ</sup>テ關聯シタ質問ガアレバ、ソコデ許サルベキハ當然ダト思フノデアリマス、其趣意デ一箇條毎ニ行カウト云フノナラバ大變議事ノ進行ハ宜イ譯デスカラ、私ハ贊成ヲシマス、サウ云フ趣意デ行ケバ、今マデ私ガ問ウタ事ニ付テモ、又皆サンガ御聽キニナツテ、アトハモウ聽カヌト云フコトニナレバ、政府ノ方モ手ガ抜ケテ宜イト思ヒマス

○小林委員 私ハ此點ニ付テ大變異議ヲ

持テ居リマス、只今司法大臣ハ餘り大キイ

聲デハ言ハレナカッタガ、大體辯護士ノ事件

ニ付テハ、起訴ノ場合ニ可ナリ考慮スル力

ラト云フ御話デアリマシタケレドモ、成程

所謂自然犯ト云フヤウナ犯罪ニ付テハ、可

ナリ考慮サレル場合ガアルデセウ、併ナガ

ラ取締法規ト云フモノ、所謂行政犯ト云フ

モノハ、殆ド常ニ起訴サレルノガ前例ニナッ

テ居ル、自然犯タル、一ツノ道德律ヲ基礎

ニシテ處罰サレテ居ルヤウナ犯罪ニ付テ

ハ、サウ云フ起訴猶豫ノヤウナ機會ガ多イ

デセウケレドモ、却テ一種ノ取締法規デアリ

テ、法律ガ決メタカラコソ初メテ刑罰ヲ受

ケルト云フヤウナ場合ニハ、寧ロ輕率ニ起

訴サレル場合ガ多イ、選舉違犯ノ如キハ其

例デアル、左側通行ト云フヤウナコトハ、

何モ法律デ決メナケレバ犯罪ニナルモノデ

ハナイ、所ガ取締法規ト云フモノハ、多ク

取締ノ爲ニ置イテアルカラト云フ理由ニ

依ッテ、ドンヽ起訴サレルト云フコトガ今

モ、實際ハ甚ダ不公平ナ結果ガ起リハシナ

イカ、殊ニ執行猶豫ト云フヤウナ場合ニハ、

固ヨリ刑ノ言渡ハ其效力ヲ失フコトハナイ

カラ、刑ニ處セラレタト云フコトニナル、

苟モ法ニ觸レハ、直チニ之ヲ奪フ、法治國

ノ民デナイト云フヤウナ、冷酷其モノ、如

モ政府トカ、法律ヲ取扱ハレル人ハ、事ヲ

簡單ニ考ヘラレルヤウニ思フ、現在ノ進歩

セル刑事政策ノ上カラ見マシテモ、執行猶

豫ト云フヤウナ場合ニハ餘程考ヘテヤラナ

ケレバナラヌ、唯一遍刑ニ觸レタカラシテ

非常ニ憎ムベキ者デアル、モウ法洽國ノ下

ニハ生活シ得ナイモノデアルト云フヤウ

ニ、事ヲ極メテ簡單ニ考ヘラレルノデアリ

マスケレドモ、ソレデハ本當ニ民ヲ愛スル

所以デハ私ハナイト思フ、前科數犯アッテ、

而モ本當ニ正シイ道ニ返ル人モ極メテ多

イ、又ソレヲ望ムノガ爲政者トシテ當然ノ

道デアル、從來可ナリ犯罪ニ付テハ列舉主

義ヲ採ッテ、辯護士ハ餘程ノ場合デナケレバ

職ヲ奪ハレナカッタモノヲ、忽チニシテ斯ウ

云フ簡單ナモノニ依ッテ職ヲ奪フ、而モ改過

遷善シテ大ニ將來社會ノ爲ニ立タウト云

フ、本當ニ正シイ道ニ返タ者マデモ、其職

ヲ剝奪スルト云フコトハ、餘程考ヘテ貰ハ

ケレバナラヌト思フ、殊ニ例ニ舉ゲラレ

タ所ノモノハ、殆ド官吏ニ適用サレテ居ル

モノバカリデアル、此點ハ更ニ御考慮ノ餘

地ガ私ハアルト思フノデアリマスガ、司法大

臣ノ先程ノ御話ハ、極メテ單純ナ御考デ、

苟モ法ニ觸レ、バ直チニ之ヲ奪フ、法治國

ノ民デナイト云フヤウナ、苟モ法ニ觸レ、

況ニヤ此辯護士法ノ如ク、辯護士ノ品位ノ

向上ト云フコトヲ眼目トシテ立法致シマシ

タ法律デハ、矢張辯護士トナルベキ者ハ立

派ナ人デアル、斯ウ云フ人ノミガ辯護士ニ

ナレルノダト云フコトヲ標榜シテ置ク必要

ガアリマス、ソコデ法ノ建前ハヤハリ斯ウ

云フ風ニシナケレバナラヌト私ハ考ヘテ居

ル、併シ實際ニ於テノ遣方ハ小野寺君ニ申

ニ上ガタヤウニ 司法當局ハ常ニ注意シテ居

リマス、ソレカラ後ニ又辯護士トシテ、或

ル過々行爲ニ依ッテ刑ニ處セラレタ人デ

モ、復權ヲ度々シテ居リマス、辯護士ハ司法

省ノ解釋ト致シマシテ復權ニナリマスト、

當然辯護士タル資格ヲ恢復スルト云フ理由

ニ依ッテ、直チニ辯護士ニナリ得ルノデアリ

マス、サウ云フコトモヤツテ居ルノデアリ

マス、決シテ冷酷其モノデハナイ、法ノ立

前ハ、立法スル場合ハ、何時モ國家ハ嚴正

ナル態度ヲ執ラナケレバナラヌ、サウデナ

イト、辯護士ト云フ者ハ刑餘ノ人デモナリ

得ルト云フノデ、甚ダ困ルノデアリマス、

ソコハ十分政府ノ意ノアル所ヲ御承知願ヒ

タイノデアリマス、ソレカラ取締法規ニ付

テ簡単ニ取締リヲヤルト云フコトデアル

ガ、簡単ニヤツテ居ルコトハナイト思ヒマ

ウナコトハ、書クコトハ出來ナイノデアリ

ス、殊ニ起訴セラレタガ爲ニ、其資格ヲ失  
フヤウナ人ニ對シテハ、公訴ヲ提起スペキ  
官吏ハ、非常ニ慎重ナル態度ヲ執テ居ル  
ノデアリマス、第三者カラ見マスルト云フ  
ト、輕率ナコトヲシテ居ルヤウニ考ヘラレ  
ルカモ知レマセヌガ、普通ノ人ト違テ、或  
ル資格ヲ持テ居ル人ノ處置ハ餘程注意シ  
テ居リマス、唯選舉違反ニ付テハ、時々色  
御批評ヲ承テ居リマスガ、選舉違反ノ  
コトニ關連致シマシテハ、他ノ委員諸君カ  
ラモ御話ガアリマシタガ、選舉違反デ禁錮  
以上ノ刑ニ處セラレルト云フ者ハ、今日迄  
ノ實際ニ徵シテ考ヘマスルト、餘程性質ノ  
良クナイ犯罪ダト思フノデアリマス、大概  
ハ罰金デ済ムノデアリマス、金錢問題ニ關  
係シタヤウナ場合ニ於テ禁錮、又ハ刑ニ處  
セラレテ居ルヤウデアリマス、其點ハ十分  
政府ノ意ノアル所ヲ御諒承願ヒタイト思ヒ  
マス

○小野寺委員 私ノ質問ハ打切りマス、唯  
重複シナイヤウニ質問シテ貴ヒタイ、私ノ  
質問ハ打切りマス

○小林委員 今司法大臣ガ御答ニナリマシ  
タガ、將來サウ云フ御考デ御ヤリニナレバ、  
是ハ格別デアリマスガ、今日マデノ司法省  
ノ執テ居ル 態度ハサウデナイ、復權ノ途  
ルト云フコトハ可ナリ廣クヤツテ居リマス、  
然ルニ我國ノ司法省ト云フモノハ、極メテ  
嚴格ト云ハウカ、偏屈ト云ハウカ、殆ド之  
ヲ使ハナイ、殊ニ今ノ政府ニ於テ然リデア  
ルト思ヒマスガ、是ナドハ廣ク使テ、初メ  
テ刑事政策ト云フモノガ生キルト思ヒマ  
ス、復權ト云フコトハ容易ニシナイ、隨分  
色々ナ選舉違反ノ如キニ至テハ、極端ナ偏  
頗ナ起訴ヲスル爲ニ、一村殆ド有力者ト云  
フモノハ悉ク刑ニ處セラレル、立派ナ町會  
議員モ、市會議員モ得ラレヌト云フヤウナ  
場合デモ、殆ド特赦ナント云フコトハ容易  
ニシナイ、サウシテ一方此頃ハ選舉法ノ改  
正ニ當テハ嚴罰主義ヲ採テ來テ居ル、今  
司法大臣ノ言ハレルコト、ハ全ク逆ナ途ヲ  
採テ來テ居ル、又取締法規ナント云フモノ  
ハ、形式犯ニ對シテハ非常ニ考ヘテ居ルト  
云フ御話デアリマスルガ、現在ハドウカ能  
ク知リマセヌガ、出來ルナラバ示シテ貴ヒ  
タイト思フノデアリマスガ、此取締法規ノ  
處分ト云フモノハ極メテ簡単ニヤツテ居ル、  
鎌倉ノ海岸ガ要塞地帶デアルコトヲ知ラナ  
クテモ、水陸形狀ヲ撮影スルト、直グニ要  
塞地帶法違反トシテ起訴サレル、現在ニ於

ガアルトカ、何トカ仰シヤツタガ、成程外國  
デハ色々ナ犯罪ニ特赦トカ、恩赦トカラス  
モ知レマセヌガ、併ナガラ故意ヲ缺クコト  
ニハナラヌカラ處罰サレル、有罪ニナル、  
ニ辯護士デアルカラト云ツテ、不起訴ニナル  
コトハ餘リナカツタ、學者ニ依テハ斯ウ云  
フヤウナ場合ニハ、所謂違法ノ認識ノ問題  
ニ付テ、斯ノ如キ場合ハ、寧ロサウ云フ法規  
ノアルコトヲ知ラヌ場合ニ、違法ノ認識ガ  
ナイカラ無罪ダト云フ學說スラ從來アツ、  
併シ是ハ嚴格ニ起訴サレテ居ル、サウ云フ  
點カラ見マシテモ、私ハ俄ニ司法大臣ノ御  
意見ニ承服出來ナイ、況シヤ此復權ヲサシ  
テ居ルノダト云フコトヲ言ハレマスガ、口  
ニハサウデアリマスガ、實際ニ於テハ中々  
日本ノ今迄ノ司法省ノ取扱トシテハ、特赦  
ナント云フコトハ容易ニシナインデアリマ  
ス、サウシテ其爲ニ所謂「インテリ」ガ國家  
ノ權力ヲ以テ抑付ケラレルト云フコトハ已  
リマスナラバ承テ置キタイ

○小山國務大臣 司法當局ノ辯護士試補修  
習ニ對スル腹案ハ大體考ヘテ居リマス、此  
腹案ハ是亦辯護士法改正調査委員會ニ現レ  
マシタ、各委員ノ御意見ヲ參照シテ考ヘタ  
譯デアリマス、辯護士法ハ此修習ヲ致シマ

スル場合ニ、辯護士會ニ修習ノ申込ヲサセルコトニナッテ居リマス、其時分ニハ辯護士會ガ適當ニ修習ヲスルノデアリマス、又司法大臣ガ辯護士修習ヲ擔當スルニ辯護士會ヲ指定スルコトモ出來ルト云フコトニナッテ居リマシテ、辯護士會ハ辯護士ノ試補ヲ監督シテ其修習ヲ指揮スル、ソレカラ辯護士會ハ所屬辯護士中カラ辯護士試補ノ修習ヲ擔當スルニ辯護士ヲ指定スル、斯ウ云フコトガ大體ノ方法トナッテ居ルノデアリマス、又辯護士會ハ場合ニ依ッテ辯護士試補ノ修習ヲ、他ノ辯護士會ニ委嘱スル、是ハ司法大臣ノ認可ヲ要スルノデアリマスガ、何故斯ウ云フコトヲ考ヘタカト云フト、場所ニ依ッテ辯護士ガ非常ニ少數デ、修習ヲ爲スベキ適當ノ人ガナイ場合ガアリマスカラ、他ノ辯護士會ニ依嘱スルト云フヤウナ規定モ設ケテアリマス、御参考ニ申シマスガ、初メニ辯護士試補ノ修習ガ全會一致デ委員會ニ於テ決ッタ時ニハ、辯護士試補ノ修習所ト云フモノヲ設ケナケレバナラナイト云フ說ガ大分出タノデアリマスガ、實務修習ノ學校ノヤウナモノデアリマスガ、是ハ經費ノ問題、其他デ十分ニサウ云フ設備ヲスルコトハ出來ナイノデアリマス、是ハ經費ガ許ス限りハ、斯ウ云フ制度ヲ設ケルコトモ極

メテ必要デアルト思ッテ居リマス、尙ホ此修習ニ付テノ眼目ハ何處ニアルカト申シマスト、辯護士タルニ必要ナ人格識見ノ涵養、及ビ實務ノ修得ト云フコトニナッテ居リマス、委員會ニ現ハレタ各委員ノ御意見ハ英吉利ノ「バリスター」ハ常ニ一定ノ場所ニ集ツテ先輩ト食事ヲ一緒ニスル、是ガ人格ヲ養成スル最モ必要ナコトデアルト云フヤウナ話モ出タノデアリマシテ、修習ト云フノハ實務ノ修習ハ無論デアリマスガ、人格識見ノ涵養ト云フコトニ重キヲ置イテ居ル譯デアリマス

○松木委員 私ノ伺ハントスルノハ、辯護士試補トシテ裁判所ニ出廷セシムル機會ヲ與ヘラレル御方針カドウカデアリマス、或ハ代理人トシテ出入スルノデアツテモ、裁判所ニ出廷シテ其訴訟事務ヲ取扱ハセルヤウナ規定ヲ御設ケニナルカドウカト云フコトヲ伺フノデアリマシテ、裁判所ニ出廷セズシテ、他ノ方法ニ依ッテ實務ノ修習モ出來ナイコトハナイデアリマセウガ、實際問題トシテハ隨分ムヅカシイ問題デアル、一番事シテ、他ノ方法ニ依ッテ實務ノ修習モ出來ナシテ、他ノ方法ト致シマシテハ、代理人ト云フ資格デハナイト云フコトニナッテ居リマス、指導辯護士、又ハ指導員ノ指導リマス、指導辯護士會ノ下ニ出ルノデアリマスガ、是ノ今マデノ經過ヲ調べ廷セシメ得ルト云フコトガ無論出來ナイナラバ、他ノ辯護士ト共ニ出廷スル場合ニ限ッ

○松木委員 私ノ伺ハントスルノハ、辯護士試補トシテ裁判所ニ出廷セシムル機會ヲ與ヘラレル御方針カドウカデアリマス、或ハ代理人トシテ出入スルノデアツテモ、裁判所ニ出廷シテ其訴訟事務ヲ取扱ハセルヤウナ規定ヲ御設ケニナルカドウカト云フコトヲ規定シテ二十三條ニ列記シテアルヤウナ仕事ヲスペキモノデナイト云フ建前ニナッテ定ヲ必要ト致シマスガ、辯護士試補ハマダ獨立シテ二十三條ニ列記シテアルヤウナ仕事ヲスペキモノデナイト云フ建前ニナッテミノ準用規定ヲ置イタノデアリマス

○小山國務大臣 辯護士ニハ二十三條ノ規定ヲ必要ト致シマスガ、辯護士試補ハマダシテ、他ノ方法ニ依ッテ實務ノ修習モ出來ナシテ、他ノ方法ト致シマシテハ、代理人ト云フ資格デハナイト云フコトニナッテ居リマス、指導辯護士、又ハ指導員ノ指導リマス、指導辯護士會ノ下ニ出ルノデアリマスガ、是ノ今マデノ經過ヲ調べ廷セシメ得ルト云フコトガ無論出來ナイナラバ、他ノ辯護士ト共ニ出廷スル場合ニ限ッ

○松木委員 第二十七條ニ二十六條ノ準用規定ガアリマシテ、辯護士試補ハ報酬アル公務ヲ兼ネルコトハ出來ナイ、是ハ分ッテ居リマスガ、辯護士會ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ、商業其ノ他營利ヲ目的トスル業務ヲ營ミ若ハ之ヲ營ム者ノ使用人トナルコトヲムル趣旨デアリマス、出廷セシメナイノデマシタガ、裁判所ニ出廷シテ修習ヲ爲サシハナイノデアリマス、腹案ニ依リマスト、ハナインデアリマス、腹案ニ依リマスト、辯護士試補ハ修習期間中ニ、其指導辯護士又ハ指導員ノ指導ノ下ニ、假ニ五十回以上ト致シマスレバ、五十回以上裁判所ニ出廷シテ訴訟手續ヲ修得スル外、民事刑事及總類ノ立案、其他辯護士タルニ必要ナ實務ヲ修得スペシト云フヤウナ腹案ガ出來テ居ルノデアリマス

○松木委員 裁判所ニ出廷致シマスル場合ニ於テハ、無論代理人トシテハ認メラレナシテ、他ノ方法ニ依ッテ實務ノ修習モ出來ナシテ、他ノ方法ト致シマシテハ、代理人ト云フ資格デハナイト云フコトニナッテ居リマス、指導辯護士、又ハ指導員ノ指導リマス、指導辯護士會ノ下ニ出ルノデアリマスガ、是ノ今マデノ經過ヲ調べ廷セシメ得ルト云フコトガ無論出來ナイナラバ、他ノ辯護士ト共ニ出廷スル場合ニ限ッ

規定サレテ居タノデアリマス、其後第一回  
ノ所謂變更、第二回ノ昭和四年ノ變更案ニ  
モ、辯護士法ノ中ニ規定サレテ居タヤウニ  
記憶ヲシテ居ルノデアリマスガ、所謂第三  
回ノ變更案ニ依リマスルト云フト、分離サ  
レテ御提案ニナッタヤウデアリマスガ、何カ  
之ニハ政府トシテ特別ノ理由ガアレバ御伺  
致シタイト思ヒマス

○小山國務大臣 辯護士法ト、法律事務取  
扱ノ取締ニ關スル法律案トヲ分ケマシタ經  
過ハ、只今御述べニナッタヤウナ事實ニ大體  
ナッテ居リマス、辯護士法改正調査委員會デ  
ハ、辯護士法ノ法案ノ罰則ノ所ニ入レタノ  
デアリマス、是ハ内容ヲ申上ゲマスト、辯  
護士法改正調査委員會ノ、最後ノ第六章罰  
則ト云フ所ヲ規定シマス時分ニハ、非常ニ  
議論ガアリマシテ、實ハ急イダノデアリマ  
ス、毎日々々議論ヲシマシテ、結局大急ギ  
デヤッタ云フ譯デ、ソレハ考ヘナケレバナ  
ラヌト云フヤウナ言葉モ御互ノ間ニ出テ  
居タノデアリマス、其後司法省當局トシテ  
ハ段々考ヘマシタ結果、辯護士法ト云フモ  
ノヲ、辯護士ノ品位向上ヲ主トスル點ニ著  
眼致シマシテ、辯護士法ノ中ニ辯護士ノ取  
締ニ適シナイ規定ヲ置カナイ方ガ宜クハナ  
イカト云フ考ガ出テ參ッタノデ、ソレデ之ヲ

置イタノデアリマス、現ニ辯護士ニ非ズシ  
テ斯ウ云フコトヲシタ者ト云フ規定ヲ致シ  
マスト、是ハ辯護士法ノ罰則ノ中ニモ規定  
サレテ居リマスケレドモ、今度分ケテアリ  
マス法律事務取扱ノ取締ニ關スル法律案ノ  
第二條ニ於テハ「何人ヲ問ハズ他人ノ權  
利ヲ讓受ケ訴訟其ノ他ノ手段ニ依リ其ノ權  
利ノ實行ヲ爲スコトヲ業トスルコトヲ得  
ズ」此條文ナドハ辯護士法へ入レルコトハ  
ドウモ工合ガ惡イ、第一條モ矢張同ジヤウ  
ニ考ヘラレマス、ソレカラモウ一ツ司法省  
トシテ此分ケルコトニ付テ考ヘマシタノ  
ハ、從來各府縣——全部ヂヤアリマセヌガ、  
ニ考ヘラレマス、ソレカラモウ一ツ司法省  
ニ依リマスト云フト、他ノ法令ニ規定ガア  
トシテ居リマスト、少シ矛盾シテ居ルヤウニ  
思フノデアリマス、第五條ノ一號ノ御説明  
ニ依リマスト云フト、他ノ法令ニ規定ガア  
ルカラシテ、是ハ出來ヌ、斯ウ云フヤウニ  
仰シヤルノデアリマス、非辯護士ノ取締ニ  
對スル第一條ニハ、私共調ベタ所ニ依リマ  
ニ稱スル府縣令ガ出テ居リマス、此府縣  
令ヲ整理シマシテ、サウシテ何カニ纏メル  
必要ガアリマスカラ、詰リ其府縣令ノ整理  
シタモノガ法律事務取扱ノ取締ニ關スル法  
律案ト云フコトニナッタ譯デアリマス、辯護  
士法ハ餘り汚ナイ——斯ウ云フコトヲ辯護  
士ガヤッテ居ルノカ、斯ウ云フコトモヤッテ  
居ルノカト思フヤウナ條文ヲ入レナイ方  
ガ、法律ノ體裁上モ極ク宜シ、又辯護士ト  
ナ辯護士ノ品位ヲ向上セシムル意味ニ於  
テ、提案シタ所ノ辯護士法ニ、斯ウ云フヤ  
アル、辯護士法ト云フノハ、其辯護士ノ取  
締ヲスルダケノモノデアルト云フ風ニ見タ

方ガ宜カラウト思ヒマシテ、御承知ノ懲戒  
處分、其他總テ判事、檢事ト同様ナ取扱ヲ  
シテ居ルノデアリマス、サウ云フ趣意デ是  
ハニツニ分ケタノデアリマス

○紅露委員 委員長 マダ長ウゴザイマスカ

○星島委員長 委員長 マダ長ウゴザイマスカ

○紅露委員 一寸デス、大臣ノ御意見御尤  
モ、斯ウ云フコトヲ御答辯ヲ  
ト思フノデスガ、ドウモ先程來ノ御答辯ヲ  
伺ッテ居リマスト、少シ矛盾シテ居ルヤウニ  
思フノデアリマス、第五條ノ一號ノ御説明  
ニ依リマスト云フト、他ノ法令ニ規定ガア  
ルカラシテ、是ハ出來ヌ、斯ウ云フヤウニ  
仰シヤルノデアリマス、非辯護士ノ取締ニ  
對スル第一條ニハ、私共調ベタ所ニ依リマ  
ニ稱スル府縣令ガ出テ居リマス、此府縣  
令ヲ整理シマシテ、サウシテ何カニ纏メル  
必要ガアリマスカラ、詰リ其府縣令ノ整理  
シタモノガ法律事務取扱ノ取締ニ關スル法  
律案ト云フコトニナッタ譯デアリマス、辯護  
士法ニ加ヘテ置クト云フコトハ、私ハ寧  
ロ宜イデハナイカ、申上ゲルマデモナク豊  
臣秀吉ガ草履取ヲ致シテ居タト云フ彼  
ノ經歷ガ、將來闢白トシテノ光ヲ放ッテ居  
ル「ムツソリニー」ガ左官屋ヲシテ居タト  
云フコトヲ、彼ハ何等隱サズシテ公表シテ  
居ル、「リンカーン」亦僅カニ學校ニ三日カ  
五日シカ行カヌ、併シ米國大統領ノ地位ヲ  
獲得シテ居ル、汚ナイコトガアッタ爲ニ、是  
等ノ人々ハ光ヲテ居ル、斯ウ云フ見地カラ、  
私ハ辯護士法ニ寧ロ進ンデ入レテ戴キタ

イ、斯ウ云フ希望ヲ有ッテ居ル、ソレカラ尙  
リマセヌガ、例へバ此施行期デアリマスガ、

昭和十一年四月一日カラ實施サレルコトニ  
ナッテ居リマスケレドモ、大正十二年ノ辯護  
士ノ資格ニ關スル法律第五十二號デゴザイ  
マスガ、アレナンカモ度々司法省ニ對スル  
陳情ニ依リマシテ、延期ニ延期ヲ重ネラレ  
テ居リマス、是モ亦辯護士法ニ御規定ニナッ  
テ居リマセヌト、折角政府ガ御提案下サイ  
マシテ、サウンシテ實施シャウト思ッテモ、所  
謂非辯護士ノ運動、其他ノ請願ニ依リマシ  
テ、實施ガ遲レハセヌカト云フヤウナ懸念  
モアルノデアリマス、折角辯護士法ヲ設ケ  
テ、ソレ等ヲ禁止スルト云フヤウナ御趣旨  
ノ徹底セシムルト云フ意味カラ致シマシテ  
モ、此辯護士法ニ御加ヘ下サルコトガ宜イ  
デヤナイカ斯様ニ考ヘテ居ルノデアリマ  
ス、其點ニ付テ政府ノ御意見ヲ腹藏ナク御  
伺致シタイト思ヒマス

○小山國務大臣 前段ノ御意見ノヤウデア  
リマスガ、後段ニ御述ベニナリマシタコト  
ハ、分ケテアルガ爲ニ、施行ガ延ビルト云  
フコトデアリマスケレドモ、是ハ延ビルト  
ナレバ矢張何方ニ入レテモ同ジヤウニ延ビ  
ハセヌカト思ヒマス、決シテサウ云フ風ニ

別々ニ取扱ハナイ決心ヲ持ッテ居リマス、又

ソレニ付テハ各方面扱ノ事情モ調査シタ積  
リデアリマス

○作田委員 私ハ審議ノ進行上司法大臣ニ  
伺ッテ置キタイノデアリマス、本辯護士法ハ  
多年ノ懸案デアリ、吾々速ニ成立ゼンコト  
地ノ辯護士會等カラ多少ノ希望モアルシ、  
吾々モ意見ガアルノデアリマスカラ、若干ノ  
修正ヲスルト云フヤウナコトニナリハシナ  
イカト思フノデアリマスガ、司法省モ此案  
デナケレバ絶対ニイケヌト云フ御積リヂヤ  
ナイト思フノデアリマスガ、其點ヲ審議ノ  
参考上一寸伺ッテ置キタイト思ヒマス

○小山國務大臣 司法省ト致シマシテハ、  
一言隻句モ修正ニハ御同意ガ出來ナイト云  
フ態度デヤゴザイマセヌ、或ル點ニ於テハ  
御協議ニ應ズルコトガ出來ヨウカト思ッテ  
居リマス

○星島委員長 一應休憩致シマシテ、午後  
一時ヨリ再開シマス

午後零時三十分休憩

○東鄉政府委員 御尋ニ御答致シマスガ、  
女子ノ法律方面ノ教育機關ト致シマシテ

ハ、私立ノ女子ノ専門學校ガ數校ゴザイマ  
ス、ソレカラ私立大學ノ中ニ女子ニ對シテ  
法律ノ學問ヲ授ケル部門ヲ設ケテ居ル學校

ス、政府ノ答辯ヲ促ス便宜上、此際私ヨリ  
マシテ、現ニ東北帝國大學ノ法文科、九州

帝國大學ノ法文科等ニ於テハ入學希望者ニ  
ハ、當然辯護士タル爲メノ學問ヲスル機關  
護士タル資格ヲ與フルコトヲ認ムル以上  
ヲ心カラ熱望シテ居ルノデアリマスガ、各

地ノ辯護士會等カラ多少ノ希望モアルシ、  
吾々モ意見ガアルノデアリマスカラ、若干ノ  
修正ヲスルト云フヤウナコトニナリハシナ  
イカト思フノデアリマスガ、司法省モ此案  
デナケレバ絶対ニイケヌト云フ御積リヂヤ  
ナイト思フノデアリマスガ、其點ヲ審議ノ  
参考上一寸伺ッテ置キタイト思ヒマス

○小山國務大臣 司法省ト致シマシテハ、  
一言隻句モ修正ニハ御同意ガ出來ナイト云  
フ態度デヤゴザイマセヌ、或ル點ニ於テハ  
御協議ニ應ズルコトガ出來ヨウカト思ッテ  
居リマス

○星島委員長 一應休憩致シマシテ、午後  
一時ヨリ再開シマス

午後零時三十分休憩

○星島委員長 午前ニ引續イテ開會致シマ  
ス、政府ノ答辯ヲ促ス便宜上、此際私ヨリ  
マシテ、現ニ東北帝國大學ノ法文科、九州

帝國大學ノ法文科等ニ於テモ女子ニサウ云フ方面ノ  
教育ヲ授ケテ居ルコトニナッテ居ルコトハ  
御承知ノ通リデアリマス、官立ト致シマシ  
テハ、女子ノ共學ハ出來ルコトニナッテ居リ  
マシテ、現ニ東北帝國大學ノ法文科、九州

質問サセテ戴キマス、今回ノ辯護士法改正  
案ニ、第二條ニ於キマシテ女子ノ辯護士法  
ル資格ヲ認メラレタコトハ、劃時代的ノ立  
法トシテ多年私共主張シタ一人トシテハ洵

案ニ、第一條ニ於キマシテ女子ノ辯護士法  
ニ喜ンデ居ル次第デアリマス、猪子所ガ辯  
護士タル資格ヲ與フルコトヲ認ムル以上  
ハ、當然辯護士タル爲メノ學問ヲスル機關  
ガ必要ト思フノデアリマス、ソレニ付キマ  
シテ文部當局ニ御伺シタイノデアリマス  
ガ、現在法律専門ニ女子ノ爲ニ勉學ヲサス  
ガ、所ノ學校ハ未ダナイヤウデアリマス、或ハ  
ノ學校ニ入學スル途ハ、既ニ開ケテ居ル譯  
デアリマス、其外ノ專門學校ハ今日ノ制度  
ニ於キマシテハ共學ニナッテ居リマセヌ、隨  
テ今俄ニ官立ノ或ハ公立ノ專門學校等デ男  
女共學ノ途ヲ開イテ、辯護士タラントスル  
トハ、今ノ所考ヘテ居リマセヌ、ソレカラ  
斯ウ云フヤウナ目的ノ爲ニ新シク女子ノ學  
校ヲ新設シヨウト云フヤウナコトモ、現在  
ノ財政其他ノ關係カラ見マシテモ、文部省  
ト致シマシテハ計畫ハ致シテ居リマセヌ、  
デスカラ今日ノ程度ニ於キマシテハ、私立  
ニ行ッテ學問スルカ、サウデナケレバ、帝國  
大學ニ女子ノ入學ヲ許ス途ヲ開イテ居ル方  
ニハ途ガナイノデアリマス

○星島委員長 大體ソレデ明瞭ニナリマシ  
テ、大學生ニサウ云フ部門ヲ置イテ居ルシ、又附  
屬ノ専門部ニ於テモ女子ニサウ云フ方面ノ  
教育ヲ授ケテ居ルコトニナッテ居ルコトハ  
御承知ノ通リデアリマス、官立ト致シマシ  
テハ、女子ノ共學ハ出來ルコトニナッテ居リ  
マシテ、現ニ東北帝國大學ノ法文科、九州

タガ、既ニ高等女學校ニ於キマシテ公民教育科ヲ置イテ、現在極メテ低級トハ雖モ女子ニ法制ノ學ヲ授ケテ居ルコトハ洵ニ一ツノ進歩デアリマシテ、何カ事アレバ高等女學合ヲ改正サレ、進ンデ男子同等ニ法律ノ學問ガ出來ルヤウニ十分ノ盡力アランコトヲ此法律施行ニ際シマシテ希望シテ、文部當局ニ對シマスル質疑ハ止メマス

當局ガ出來ルヤウニ十分ノ盡力アランコトヲ此法律施行ニ際シマシテ希望シテ、文部當局ニ對シマスル質疑ハ止メマス

○牧野委員 ソレニ關聯シテ一寸御尋シタ伊思ヒマス、是ハ文部當局ニモ、司法當局ニモ御伺シタイノデスガ、既ニ本法ニ於テ女子ニ辯護士タル資格ヲ認メルト云フコトニ相成リマヌル以上ハ、女子ノ受験資格ト云フモノガナクテハナラヌ、ソレデ現在ノ受験資格ニハ中等學校ヲ卒業シテ専門學校ヲ了ヘタ者ト云フコトガ條件ニナッテ居ルト記憶シマスガ、現在ノ高等女學校ト云モノハ、今日ノ試験制度ノ中等學校ニ當然當缺マラナイト云フ御考デアリマセウカ、特ニソレニ關スル規定等ヲ改正シナケレバ當缺マラナインデアリマセウカ、其點ニ付テ文部當局ノ御意見モ、司法當局ノ御意見モ伺ツテ置キタイト思ヒマス

○木村政府委員 此法律ガ幸ニ通過致シマスレバ、高等試験令ノ方ハ今仰シヤクタ點ノミナラズ、他ノ點ニ於テモ二、三改正ヲ

必要トスルコトガ當然起ツテ參リマスカラ、其際適當ニ考慮シタイト思ヒマス

○牧野委員 適當ノ考慮ハ御尤デアリマスルガ、詰リ現在ノ高等女學校ト云フモノヲ

男子ノ中等學校ト同一ニ爲シ得ルカドウカト云フコトヲ御伺シタイ、是ハ此法律ガ制定セラレマシテ、女子ノ受験資格方段々問題ニナッテ參リマスト云フト、何處ニモサウ

伊思ヒマス、是ハ文部當局ニモ、司法當局ニモ御伺シタイノデスガ、既ニ本法ニ於テ女子ニ辯護士タル資格ヲ認メルト云フコトニ相成リマヌル以上ハ、女子ノ受験資格ト云フモノガナクテハナラヌ、ソレデ現在ノ受験資格ニハ中等學校ヲ卒業シテ専門學校ヲ了ヘタ者ト云フコトガ條件ニナッテ居ルト記憶シマスガ、現在ノ高等女學校ト云モノハ、今日ノ試験制度ノ中等學校ニ當然當缺マラナイト云フ御考デアリマセウカ、特ニソレニ關スル規定等ヲ改正シナケレバ當缺マラナインデアリマセウカ、其點ニ付テ文部當局ノ御意見モ、司法當局ノ御意見モ伺ツテ置キタイト思ヒマス

○木村政府委員 高等試験令ノ建前カラ申シマスルト、中等學校ト云フモノニハ高等女學校ト云フモノヲ含ンデ居ナイト云フ解釋ヲ致シタイノデアリマス、併シ現在ノ法律ガ改正サレナイ限り、豫備試験カラ來ル者ハ問題ハ別デアリマスガ、單ニ中等學校卒業程度ニ認メル、サウ云フ解釋ダト思ヒマス

ニハ、辯護士ノ義務バカリデ、權利ニ付テハ少シモナイ、サウシテ辯護士ガ職務上知リ得タル祕密ヲ保ツト云フコトハ、辯護士ノ權利トシテ御認メニナル御意思デアリマスカ、ソレヲ伺ツテ置キタイ

○八並政府委員 只今牧野氏ノ御質問ハ前々ヨリ辯護士會ノ方面デサウ云フヤウナ御意見ガアッタヤウニ承ツテ居ルノデアリマスガ、實ハ第三章ニ付キマシテモ權利ト書イテアルガ、權利ガナイト云フヤウナコトデ、大分此問題ニ付テ私モ公式、非公式ニ色々ナ方面カラ御議論ヲ承ツタノデアリマスガ、

此文字ヲ讀ミマスト、恰モ義務ダケ書イテアッテ、權利ト云フモノガ全然ナイデハナイカ、故ニ只今牧野氏ノ言フヤウナ秘室ヲ守ル所ノ權利ガアル、斯ウ云フヤウナ條文アッテ、權利ト云フモノガ全然ナイデハナ

○牧野委員 「辯護士ノ權利及義務」ト云フ第三章ノ規定ニ付テ、權利ガアルカナイカト云フコトハ獨立シタ質問デアリマス、辯護士ノ權利ト云フモノハ此中ニ一項ヲ加ヘテ、其辯護士ノ權利トシテ祕密ヲ守ル、其權利ヲ確保スルヤウニシタナラバドウカト云フコトハ、別ニ權利ヲ此處ニ規定ヲシタナラバドウカト云フノデアリマシテ、此第三章ニ權利ガアルカナイカト云フコトハ、

云フコトハ、是ハ司法政務次官ノ御説明ガアリマシタガ、全ク權利ノ規定ガナイ、是ハ唯司法當局ガドウ云フ御意見ヲ持ツテ居ラレルカヲ伺ツテ置ク程度ニ止メタイト思フノデアリマス、サウシテ祕密確守ノ點ニ付テハ、刑事訴訟法百八十七條、民事訴訟法ノ二百八十一條ニ於テ默祕ノ義務ガアル

ガ、第三章ノ辯護士ノ權利及義務ト云フ所ノ權利ガアルト云フヤウナ御意見ニ付キマシテハ、實ハ刑事訴訟法ヤ、民事訴訟法ノ關係上、サウ云フコトヲ插入スルマデモナイデハナイカト云フヤウナコトデ、色々ナ御意見ガアッタコトハ承ツテ居リマスガ、此中ニサウ云フコトヲ入レルト云フコトヲ實ハ致サナカッタト云フ經緯ニナッテ居ルノデアリマス

○牧野委員 「辯護士ノ權利及義務」ト云フ第三章ノ規定ニ付テ、權利ガアルカナイカト云フコトハ獨立シタ質問デアリマス、辯護士ノ權利ト云フモノハ此中ニ一項ヲ加ヘテ、其辯護士ノ權利トシテ祕密ヲ守ル、其權利ヲ確保スルヤウニシタナラバドウカト云フコトハ、別ニ權利ヲ此處ニ規定ヲシタナラバドウカト云フノデアリマシテ、此第三章ニ權利ガアルカナイカト云フコトハ、

云フコトハ、是ハ司法政務次官ノ御説明ガアリマシタガ、全ク權利ノ規定ガナイ、是ハ唯司法當局ガドウ云フ御意見ヲ持ツテ居ラレルカヲ伺ツテ置ク程度ニ止メタイト思フノデアリマス、サウシテ祕密確守ノ點ニ付テハ、刑事訴訟法百八十七條、民事訴訟法ノ二百八十一條ニ於テ默祕ノ義務ガアル

ト云フコトニナッテ居ル、併ナガラ民事訴訟

法ニ於テハ、其義務ヲ免レタ時ニ於テハ、是ハヤハリ證言等ヲ拒ムコトガ出來ナイトナツテ居ル、又刑事訴訟法ニハ本人ノ承諾ガアツタ時ニハ、此事實ヲ公開スルコトガ出  
來ルト云フ規定ニナツテ居リマスカラ、是ハ

ハ一個以上ノ辯護士會ガアルト云フコトヲ  
法律デ以テ決メタ、即チ其地方裁判所ノア  
ル所、一瞬間モ辯護士會ガナクテハナラヌ  
ト云フコトニナルト思ヒマスガ、是ハサウ  
解釋シテ宜シイデセウカ

カテ、將來ニ於テモ必ズヤ其數ガ増加スルモノト云フヤウナ見地ノ下ニ此條文ハ出來

タノデアリマス

○牧野委員 只今御伺シタ御説明ニ依レ  
バ、詰リ地方裁判所ニハ必ズ辯護士會ガ一

○ 牧野委員 サウスルト、當局ノ御解釋ニ依レバ、辯護士會ヲ解散致シタル場合、辯護士ガ辯護士會ヲ作ッテ、其届出ヲスルマデハ職務ヲ執ルコトガ出來ナイト云フ結果ガ主ズレト云フ像見ヲサレテ居ルコトが明白

本人ノ意思ニ依ッテ左右サレテ居ル、辯護士  
固有ノ権利トシテ認メタ規定デハナイノデ  
アリマス、辯護士ハ辯護士ノ判断ニ依ッテ、  
業務上知リ得タ祕密ヲ守ルベキモノダト云  
フ所ノ権利ヲ認メテ置ク方ガ適當デアラウ  
ト考ヘルノデアリマスガ、其點ニ關スル當  
局ノ御意見ハ如何デアリマスカ

○木村政府委員　此法文ノ建前ガ辯護士會ニ入り、且ツ登録サレタモノデナケレバ、辯護士ノ事務ヲ行フコトガ出來ナイト云フコトニナッテ居リマスカラ、ソコデ苟モ地方裁判所ノ管轄區域内ニ於テハ、必ズ辯護士會ヲ設立スベシト云フ法文ノ趣旨デアリマス、現在モ總テ地方裁判所ニハ辯護士ガ全

個以上必要デアルト云フコトニ伺ッタノデ  
アリマス、サウスルト云フトモウ一つ御伺  
シタイノハ、此四十四條ニ依ッテ辯護士會  
ヲ解散スル、斯ウ云フ規定ガアリマスガ、  
解散スルト云フト、此法律ノ建前デ一ツノ  
辯護士會ガナクナルト云フコトニナルノデ  
アリマスガ、辯護士會ガナイ場合ハドウナ  
リマスカ

ニナツダノデアリマス、左様ニソレハ伺ッテ置キマス、其次ニハ辯護士會ガ實際ニ於テハ解散ヲセラレルヤウナコトガアルマイド思フト云フコトモ伺ッテ置キマス、更ニ御伺シタイコトハ、四十四條ノ想像シテ居ル「會則ニ違反シ又ハ公益ヲ害スルトキハ司法大臣ハ其ノ決議ヲ取消シ、其ノ議事ヲ停止シ」ニ引懸ツテ、辯護士會ノ解散ヲ命ズルコトヲ得ト云フコトニナツテ居ルノデアリ

サレマシタル刑事訴訟法ノ百八十七條、民事訴訟法ノ二百八十一條ト云フモノガアリマスノデ、別ニ第三章ニ斯ウ云フ規定ニ類似シタル規定ヲセズトモ、運用ノ上ニ於テ大シタル支障ハナイノデハナイカト云フヤウナ意味合カラ、サウ云フ規定ヲ實ハ設ケ

○牧野委員 例へバ樺太地方裁判所ノ如キ、辯護士ガ一人ヤ二人シカ居ラナイノデアリマスガ、此法律ニ規定シテアルヤウナ辯護士會ヲ設立シテ、代表者及其他ノ機關ヲ設ケヨト言々タ所デ、一人ヤ二人ノ辯護士デ會長、副會長、常議員ガ出來ヨウ筈ガ

文淵閣圖書館

マスガ、公益ヲ害スルト云フコトハ、例ヘ  
バ解散ノ場合ニハドウ云フコトヲ豫想シテ  
居ルノデアリマセウカ、是モ前會大臣ニ伺フ  
タノデアリマスガ、其質問ニ對シテ御答ガ  
ナカッタノデアリマス、具體的ニ想像シ得  
ルダケノコトヲ御話願ヒタイ

○牧野委員 其點ニ關スル質問ハ此程度ニ

ニナツテ居リマスカ

止メテ置キマス、更ニ第二十九條ニ付テ御  
尋ヲ致シマス、「辯護士會ハ地方裁判所ノ管  
轄區域ミニ之ヲ設立スベシ」之ニ依ルト現  
行法ト同一ニ、必ズ地方裁判所ノ所在地ニ

ニナッテ居リマスカ  
○木村政府委員 其點モ此規定ノ起リマス  
辯護士ガ少カツタガ、現在ハ既ニ八名ニ上ツ  
テ居リマス、尙ホ事件增加ノ傾向ガ見マス

イコトダト思ヒマス、併シ實際ノ上カラ見  
マスレバ辯護士會ヲ解散スルヤウナコト  
ハ、法文ニハ理窟上戴セテアリマスケレド  
モ、アリ得ナイコトデハナイカト想像ヲシ

的ニ加ヘラレタ規定デハアルマイカト思ビ  
マスガ、想像ヲ逞シウシテ御答致シマシテ  
宜シイカドウカ分リマセヌガ、併シ或ハ思  
想的ニ非常ニ危険ナ人達ガ澤山集マラレ  
テ、自分デ辯護士會デモ拵ヘラレマシテ、

的ニ加ヘラレタ規定デハアルマイカト思ヒ  
マスガ、想像ヲ逞シウシテ御答致シマシテ  
宜シイカドウカ分リマセヌガ、併シ或ハ思  
想的ニ非常ニ危険ナ人達ガ澤山集マラレ  
テ、自分デ辯護士會デモ拵ヘラレマシテ、

其決議等ガ國憲ノ上ニ非常ナ響キデモ持ツ  
ヤウナ事態ガ萬ガ一出マシタナラバ、サウ  
云フ場合ニ於テハ監督官廳タル司法大臣ハ  
矢張解散セザルヲ得ナイ、斯ウ考ヘテ居リ  
マス、全ク是ハ理論上ノ問題デハナイカト  
考ヘテ居リマス

○牧野委員 今御話ノヤウナ場合ニ於テ  
ハ、辯護士會ノ解散ヲスレバ、サウ云フコ  
トノ防止ガ出來ルト云フ御考デアリマセウ  
ガ、尙ホ辯護士會ノ解散ノ外ニ適用スペキ  
法條ハ適用シ検舉スペキモノハ檢舉スル  
ト云フ御考デアリマスカ、之ヲ御伺致シタ  
イト思ヒマス

○木村政府委員 チヨット今御趣旨ガ伺ヒ  
取レマセメデシタガ、無論ソレガ他ノ法條  
ニ當リマス際ニ於テハ、其法條ヲ以テ處罰  
致シマスガ、此法條ニハ當リマセヌケレド  
モ、一般ノ其當時ノ社會通念ニ考ヘテ、苟  
モ辯護士會トモアラウモノガ、斯ル決議ヲ  
スルノハ、假令法ニ觸レマセヌデモ、甚ダ  
不穩當ダト思ハル、場合ニ於テハ解散スル  
ノ外ナカラウ、斯ウ考ヘテ居リマス

○牧野委員 例ヘバ思想問題ノ如キコトガ  
アル場合ニ於テ、多數ノ辯護士ガ集ツテ國憲  
ニ關スル不穩當ナ決議ヲシタト云フ場合、  
他ノ條文ニ當辯マレバ無論其法律ヲ以テ取

締ルガ、其他ノ場合ニハ解散スルヨリ外仕  
方ガナイト云フ御話デアリマスケレドモ、  
ラウト思ヒマス

結果シテ然ラバ、檢舉スペキ者ハ檢舉シ、而

シテ其決議ハ、所謂四十四條ノ前段ニ依ッテ

決議ヲ取消シテシマッタラバ、何モ殘ルマイ

ト思フガ、ソレデモ尙ホ辯護士會ヲ解散ス

ル必要ガアルカ、御伺致シタイ

○木村政府委員 仰シヤル通り決議ヲシ

マシテモ、ソレヲ取消スコトガ出來マスガ、  
取消セバ又決議ヲシ、取消セバ又決議ヲス

ルト云フコトガアリマシテ、是ハ全ク私ノ

想像デアリマシテ、私ハサウ云フコトガア

ラウト思フケレドモ、茲ニ解散ノ規定ヲ置

ト思フノデス、萬ガ一サウ云フコトハナカ

ク、斯ウ云フコトハ大臣ガ義ニ公法人ニ付

ルト云フコトガアリマシテ、解散

ニハ、必要ガナイヤウニ私共ハ諒解出來ル

○牧野委員 只今迄伺ッタ此辯護士會解散

ノ規定ハ、殆ド理論遊戯デアッテ、實際ノ適

シ得ル規定ヲ置クノデアルト云フコト以外

用ハナイケレドモ、是ハ法律ニハ解散ヲ爲

トテアッテモ解散ガ出來ナイト云フコトニ

ナレバ、理論上統一セヌヤウニナル、サウ

云フ理由デ置キマシタガ、實際ノ上ニ於テ

ハ斯ウ云フ規定ヲ發動スペキ場合ハナカラ

ウト云フ考デゴザイマスカラ、左様御承知

シテアッテモ解散ガ出來ナイト思ヒマス

○木村政府委員 サウスルト、最後ニ御伺致シ

ニ、萬々一サウ云フコトハアルマイト思フ

ケレドモ、アッタ方ガ宜イト思ヒテ規定シテ

デアリマセウカ、又大臣ノ御答下サッタ以外

ニ、萬々一サウ云フコトハアルマイト思フ

ケレドモ、アッタ方ガ宜イト思ヒテ規定シテ

デアリマスカ、之ヲ御伺致シタイ

○木村政府委員 大臣ノ仰シヤッタ通り

ニ、公法人ト認メラレマシタルモノニハ、

總テ解散ノ規定ガ置イテアルノデアリマ

ス、若モ之ヲ公益法人ト云フ見方ニシマス

レバ民法ノ規定ニ於テ解散ガ出來ルコトニ

テハ、萬一ノ場合ト雖モ想像シテ一應ノ規

定ヲ置クト云フコトガ法律ノ建前上正當ナ

コトデハナイカ、サウ考ヘテ居リマスカラ、

矢張公益法人デサヘモ、民法ノ規定ニ依ッテ

解散ノ規定ガアル以上、矢張公益法人ニ付テ

モ、サウ云フ規定ヲ法律上ニ於テハ認メテ

置ク方ガ實際トシテ正當ナル事柄デアル、

サウ考ヘテ居リマス

○牧野委員 此點ハ其程度ニ止メテ置キマ

ス、次ハ第十八條辯護士ノ事務所ノ規定、

事務所ヲ設置スルコトガ出來ナイ、是ハ吾  
吾都會ニ居ル辯護士ニハ置ク必要ハナイト  
不便ナ區裁判所ノ在ル所ナドニ於テハ、辯  
護士ノ住居シナイ地方ガ澤山アル、此場合  
ニ於テ辯護士ノ出張事務所ガナイト云フ  
ト、依頼者ガ態々辯護士ノ居ル所迄出掛け  
テ行ッテ事件ヲ依頼スルカラ大變費用ヲ使  
フヤウニナルト云フコトハ容易ニ想像ガ出  
來ル、又實際其通リニナッテ居ルノデアリマ  
スガ、何カ此點ニ付テ區裁判所ノ所在地ニ  
ハ設ケルコトガ出來ル、或ハ司法大臣ノ認  
可ヲ得タ場合ニハ設ケルコトガ出來ルト云  
フヤウニ、何カ緩和スル規定ハ御考ナイン  
デスカ、是ハ他ノ委員諸君カラ御質問ガアッ  
タラウト思ヒマスガ修正等ノ場合ニ於テモ  
参考ニナルト思ヒマスカラ、御答願ヒマス  
○八並政府委員 此點ハ大臣ヨリ午前中ニ  
答辯ヲ爲サッタ點デアリマスルガ、只今ノ  
所、特別ニ區裁判所ノ所在地ニドウスルト  
云フ考ハ實ハ持ッテ居リマセヌ、此際ニチ  
ヨット申上げテ置キタイノハ、二箇以上ノ事  
務所ヲ許スカ、許サヌカト云フコトデアリ  
マスガ、御承知ノ通り是ハ三百ヲ取締ルト  
云フコトニ重大ナ關係ヲ持ッテ居ルノデアリ

リマセヌガ、普通使テ居リマスカラ三百ト  
申シマスガ、非辯護士ガ世ノ中ニ非常ニ跋  
扈スルト申シマスカ、澤山出來テ、辯護士  
ノ爲ニ面白カラ又行動ヲ執ッテ居ルト云フ  
ノハ、結局二箇以上ノ事務所ヲ持ッテ居ルト  
云フコトニ基因スルノデハナイカ、ソコデ  
ドウシテモ事務所ト云フモノヲ一箇所ニ限  
ラナケレバ、ソレノ制裁規定ヲ設ケテモ何  
等效果ハナイ、斯ウ云フ趣旨ガ此中ニ最モ  
多ク含マレテ居ルノデアリマス、ソレカラ  
モウ一ツ申上ガタイノハ、斯ウ云フコトヲ  
申上ゲテ宜イカドウカ分リマセヌガ、辯護  
士ガ一地方ニ非常ニ澤山集テ、余リ集リ  
過ギテ居ルト云フ傾向モ辯護士諸君カラ澤  
山聞クノデアリマス、ソコデ此辯護士法ヲ  
作ル當時ニ於テモ、地區ヲ限ッテ辯護士ノ事  
議論サヘ實ハアツタノデアリマス、併シサウ云  
フコトハ到底今日ノ辯護士事務ノ上ニ於テ  
行ハレルコトデハナイシ、又依頼者ノ方カ  
ラ言ワデモ、辯護士ノ地區ヲ限ルト云フコト  
ハ、餘リ好マシイコトデハナイト云フコト  
デ、是ハ結局採用ニナラナカツタノデアリマ  
スガ、一箇以上ノ事務所ヲ設クルコトガ出  
來ナイト云フコトニナレバ、一地方ニ澤山

ニ依ツテ促スト云フコトニナリハシナイカ  
ト思フ、斯ウ云フ言葉ヲ使ツテ宜イカドウカ  
分リマセヌガ、區裁判所ノ在所地ニ於テ辯  
護士ガ一人モ居ラナイ所ニモ、結局皆御出  
掛ケニナルト云ファウナコトニナリハシナ  
イカト云フ考モ持ツテ居リマス、ソコデ第  
八條ヘ、非辯護士ト云フモノヲ取締ルト云  
フ方面ニ最モ重大ナル關係ヲ持ツテ居ルト  
同時ニ、間接ニハ辯護士諸君ガ全般的ニ分  
布サレルト云フ一ツノ反射作用ガアリハシ  
ナイカ、即チ副作用ガ茲ニ行ハレテ、非常  
ニ便宜ニナリハシナイカ、斯ウ云フ風ニ實  
ハ考ヘテ居ルノデアリマス

何處ニアリマスカ、其點ヲ御伺致シマス  
○八並政府委員 辯護士會ニ斯ウ云フ規定  
ヲ設ケテ十分デハナイカト云フヤナ御意見  
ノヤウデアリマスルガ、今度ノ辯護士ノ法  
案ヲ立テル上ニ於テ、重要點ハ澤山アリマ  
スルガ、此十八條ノ云フモノモ實ハ重點ノ  
一ツニナツテ居ルノデアリマス、先程來申  
上ゲマス通リニ、非辯護士ヲ取締ラナケレ  
バイカヌト云フコトハ、殆ド辯護士會ノ一  
致シタル意見デアッテ、熱烈ナル御希望デ  
アルト吾々モ聞イテ居ルノデアリマス、サ  
ニ入レテ置クト云フコトノ方ガ却ラテ宜ク  
ハナイカ、斯ウ云フ風ニ實ハ考ヘテ居リマ  
ス

集ツテ居ル辯護士諸君ノ分布ヲ、結局此規定

監督権ヲ奪ハナケレバナラヌト云フ理由ハ

ルカ、或ハ事務員ト云フ看板デナクトモ、澤山ノ出張所ト云フヤウナモノヲ作ッテ、其處ニ非辯護士ガ居リマシテ色々ナ事務ヲ執ツテ居ルト云フノガ、實際現在ノ事情デアルト吾々ハ實ハ考ヘテ居リマス、私モ澤山ノ實例ヲ知ツテ居リマスルガ、辯護士ノ方々ハ十分其實情ヲ御承知ニナッテ居ルコト、思ツテ居ルノデアリマス、ソコデ辯護士ノ事務員ガ直グ三百ダト云フコトハ無論私ハ考ヘテ居リマセヌ、辯護士ノ事務員ナラズシテ、而シテ其處ニ居ツテ事務ヲ執ルト云フ人モアリマセウシ、又事務員ト云フヤウナ名義ヲ用ヒテ本當ノ先生ハ一箇月ニ一遍ヨリ來ナイ、或ハ二箇月ニ一遍ヨリ來ナイ、或ハ辯護士ト特殊ノ關係ガアッテ、賴マレテ名義ダケ貸シテ吳レナイカト云フヤウナコトデ、貸シテ居ルト云フヤウナ人モ多數ノ中ニハアリハシナイカト考ヘテ居ルノデアリマス、サウ云フ譯デアリマスカラ、此規定ト云フモノハ非辯護士ヲ取締ルト云フコトニ最モ重大ナル意義ノアルコトデハナイカト云フ風ニ實ハ考ヘテ居リマス

○牧野委員 此點ハ司法省ニ於テ十分御研究デアリマセウガ、又吾々ノ實際知ツテ居ル所ノ遠隔ノ地ニ於ケル辯護士ノ事情等カラ必シモ適當ト私ハ思ハヌノデアリマス

ルガ、此問題ハ此程度ニ止メテ置キマス、議論ハ別ニアリマス、ソレカラ更ニ他ノ方面ヲ一寸御伺致シマス、三十八條ノ第六號、是ハ「辯護士ガ委嘱ヲ受ケタル事件ノ梗概ヲ執ツテ居ルト云フノガ、實際現在ノ事情デアルト吾々ハ實ハ考ヘテ居リマス、私モ澤山ノ實例ヲ知ツテ居リマスルガ、辯護士ノ方々ハ十分其實情ヲ御承知ニナッテ居ルコト、思ツテ居ルノデアリマス、ソコデ辯護士ノ事務員ガ直グ三百ダト云フコトハ無論私ハ考ヘテ居リマセヌ、辯護士ノ事務員ナラズシテ、而シテ其處ニ居ツテ事務ヲ執ルト云フ人モアリマセウシ、又事務員ト云フヤウナ名義ヲ用ヒテ本當ノ先生ハ一箇月ニ一遍ヨリ來ナイ、或ハ二箇月ニ一遍ヨリ來ナイ、或ハ辯護士ト特殊ノ關係ガアッテ、賴マレテ名義ダケ貸シテ吳レナイカト云フヤウナコトデ、貸シテ居ルト云フヤウナ人モ多數ノ中ニハアリハシナイカト考ヘテ居ルノデアリマス、サウ云フ譯デアリマスカラ、此規定ト云フモノハ非辯護士ヲ取締ルト云フコトニ最モ重大ナル意義ノアルコトデハナイカト云フ風ニ實ハ考ヘテ居リマス

○木村政府委員 實ハ此規定ノ梗概ヲ置クノテ、斯ウ云フコトハ其人々シテ居リマスカ、斯ウ云フコトハ其人々シテ居リマスカ、御伺致シマス

○木村政府委員 實ハ此規定ノ產レマシタ沿革カラ申シマスト、此辯護士法委員會ノ設ケラレマシタ時分ニ、一部ノ純理ヲ主張スル方ガ獨逸ニ於ケルヤウニ手數要綱ヲ設ケルコトガ必要デハナイカト云フヤウナコトガ非常ニ強ク主張サレマシタガ、サウ云締ルト云フヤウナ條文ガ多イヤウニ思フ、辯護士ノ人格ヲ認メテ、辯護士ニ信賴ヲ置ケルト云フ條項ハ發見出來ナイ、此條項ノ如キハ最モ其露骨ナ規定ダト思フ、是ハ辯護士其者ノ人格ヲ法律ガ先づ信用シテ、辯護士ハ事件ノ梗概ヲ必要ガアレバ書イテ置クコトヲ統制シテ行ケバ、少シモ言フガ如キコトハ現在ノ所ニ於テハ適當デナイ、サウ云フコトナラバ、辯護士會自ラサウ云フコトヲ統制シテ行ケバ、書イテ置カナイ其依頼ノ結果、結局ドウ云フ事件ヲ受取ツテ居ル弊害ハ起ラヌデヤナイカト云フヤウナ議論イカト云フ風ニ實ハ考ヘテ居リマス

○牧野委員 此點ハ司法省ニ於テ十分御研究デアリマセウガ、又吾々ノ實際知ツテ居ル所ノ遠隔ノ地ニ於ケル辯護士ノ事情等カラ必シモ適當ト私ハ思ハヌノデアリマス

ルガ、此問題ハ此程度ニ止メテ置キマス、議論ハ別ニアリマス、ソレカラ更ニ他ノ方面ヲ一寸御伺致シマス、三十八條ノ第六號、是ハ「辯護士ガ委嘱ヲ受ケタル事件ノ梗概ヲ執ツテ居ルト云フノガ、實際現在ノ事情デアルト吾々ハ實ハ考ヘテ居リマス、私モ澤山ノ實例ヲ知ツテ居リマスルガ、辯護士ノ方々ハ十分其實情ヲ御承知ニナッテ居ルコト、思ツテ居ルノデアリマス、ソコデ辯護士ノ事務員ガ直グ三百ダト云フコトハ無論私ハ考ヘテ居リマセヌ、辯護士ノ事務員ナラズシテ、而シテ其處ニ居ツテ事務ヲ執ルト云フ人モアリマセウシ、又事務員ト云フヤウナ名義ヲ用ヒテ本當ノ先生ハ一箇月ニ一遍ヨリ來ナイ、或ハ二箇月ニ一遍ヨリ來ナイ、或ハ辯護士ト特殊ノ關係ガアッテ、賴マレテ名義ダケ貸シテ吳レナイカト云フヤウナコトデ、貸シテ居ルト云フヤウナ人モ多數ノ中ニハアリハシナイカト考ヘテ居ルノデアリマス、サウ云フ譯デアリマスカラ、此規定ト云フモノハ非辯護士ヲ取締ルト云フコトニ最モ重大ナル意義ノアルコトデハナイカト云フ風ニ實ハ考ヘテ居リマス

○木村政府委員 實ハ此法案ニハ四十五條ニ於テ「辯護士會ハ辯護士ト委嘱者トノ間ニ紛議ヲ生ジタルトキハ當事者ノ請求ニ因リ其ノ調停ヲ爲スコトヲ得」トアッテ、即チ辯護士會ハ辯護士會員ト其委嘱者トノ間ニ生ジタル紛議調停ノ權能サヘモ認メテアリマスカラ、サウ云フ所カラ考ヘ併セマシテ、此六號ト云フ規定ヲ置ク方ガ宜クハナカ、決シテ辯護士ハ信用ガナイト申スノデハアリマセヌ、若シ手數料其他ノ點ニ於テ紛議ノ生ジタル時分ニ、辯護ノ事件ノ梗概ヲ記載シ、收支ノ大體ヲ記載シタ帳簿ガアリマスレバ、辯護士會トシテハ其調停ノ權能ヲ行フ場合ニ於テモ、頗ル便利ナ事ガ生ズルト思ヒマス、決シテ辯護士ヲ信用シテ置ケバ、ソレカラ先ノコトハ總テ辯護士會ガ統制ヲシテ行ケバ宜イデハナイカト

○木村政府委員 實ハ此法案ニハ四十五條ニ於テ「辯護士會ハ辯護士ト委嘱者トノ間ニ紛議ヲ生ジタルトキハ當事者ノ請求ニ因リ其ノ調停ヲ爲スコトヲ得」トアッテ、即チ辯護士會ハ辯護士會員ト其委嘱者トノ間ニ生ジタル紛議調停ノ權能サヘモ認メテアリマスカラ、サウ云フ所カラ考ヘ併セマシテ、此六號ト云フ規定ヲ置ク方ガ宜クハナカ、決シテ辯護士ハ信用ガナイト申スノデハアリマセヌ、若シ手數料其他ノ點ニ於テ紛議ノ生ジタル時分ニ、辯護ノ事件ノ梗概ヲ記載シ、收支ノ大體ヲ記載シタ帳簿ガアリマスレバ、辯護士會トシテハ其調停ノ權能ヲ行フ場合ニ於テモ、頗ル便利ナ事ガ生ズルト思ヒマス、決シテ辯護士ヲ信用シテ置ケバ、ソレカラ先ノコトハ總テ辯護士會ガ統制ヲシテ行ケバ宜イデハナイカト

バ毛頭アリマセヌ

○牧野委員 其點モ議論ガアリマスガ、質問ハ其程度ニ止メテ置キマス、最後ニ御伺ヲ致シタインノハ、委嘱者ノ爲ニシタル收支ヲ記載スペシト云フノハ、是ハドウ云フ意味デセウ、辯護士ガ苟モ委嘱者カラ受取タ

金ハ皆書クノデスカ、所謂訴訟實費トシテ  
委嘱者ニ歸著スベキ計算ダケヲ書クト云フ  
趣意デセウカ、其點ヲ伺ヒタイ

○木村政府委員 私ノ今ノ考デハ、大體ノコトデアリマスカラ、先ニ仰シヤイマシタ通リニ委嘱者ノモノニ歸シタ事項ダケヲ書ケバ結構ダト考ヘテ居リマス

○牧野委員 サウスルト露骨ニ申セバ、手  
數料ヤ報酬ハ書カヌデモ宜イ譯ズカ、書  
クノデスカ、ソレヲ伺ヒタイ

○木村政府委員 先づ大體是ハ印紙代ヲドレダケ受取ツタトカ、或ハ供託ニ依ツテドレダケ受取ツテ、是ダケ拂ツタトカ、サウ云フ趣意ノ記載ヲ實ハ御願スル氣分デアリマス、此文字其モノカラ行キマスト、非常ニ廣クナリマスガ、只今申シマシタヤウニ、サウ云フ點ヲ記載スルモノデ、何ト申シマスカ成功謝金トカ何トカ云フヤウナモノガアリマス、ア、云フモノマデモ記載シテ貰フト云フ趣意デハアリマセヌ

○牧野委員 然ラバ此點ハ私ハ此程度ニ止

メテ置キマス、更ニモウ一ツノ法律事務取扱ノ取締ニ關スル法律案ニ付テ御伺シタインデスガ、之ヲ讀ンデ見ルト大變ムヅカシイ條文ニナルヤウデス、即チ第一條「辯護士ニ非ザル者ハ報酬ヲ得ル目的ヲ以テ他人

間ノ訴訟事件ニ關シ又ハ他人間ノ非訴訟事件ノ紛議ニ關シ代理、仲裁若ハ和解ヲ爲シ又ハ此等ノ周旋ヲ爲スヲ業トスルコトヲ得ズ

但シ正當ノ業務ニ附隨シテ爲ス場合ハ此ノ  
限ニ在ラズ」是ハ私ハ大變幾ツモ種類ノ異ッ  
タ問題ガ起ラウト思フ、面倒デスカラ問題  
ニナリサウナ所ヲ一度ニ申上ゲマス、辯護

士ニ非ザル者ガ報酬ヲ得ル目的ヲ以テ他人間ノ訴訟事件ニ關シテ云々ト云フノハ、訴訟事件デナケレバ宜イト云フノデアルカド

ウカ、是ガ一ツ、ソレカラ他人間ノ非訟事件ノ紛議ガナケレバ 非訟事件ヲ扱ッテモ宜イト云フノデアルカ、是モ伺ヒタイ、ソレカラ是等ヲ業トスルコトヲ得ズ、業トスルコトヲ得ズダカラ、時々ヤツテ居ル分ニハ構ハナイ、斯ウ云フノデアルカ、ソレカラ但シ正當ノ業務ニ附隨シテ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラズ、サウスルト正當ノ業務ニ附隨シテ爲ス場合ハ業トシテヤツテモ宜イノデアルカ、ソコデ本條ノ取締ハ業トシテヤル

者ヲ取締ルノデアルガ、正當ノ業務ニ附隨

シテ爲ス場合ハ業トシテモ宜イト云フコトニナルノカ、業トシテハイカヌノダト云フコトニナレバ、是ハ但書ガ蛇足デハナイカト思フ、モウ一ツハ一體正當ノ業務ニ附隨シテ爲ス場合トハドンナ場合デアルカ、是

ハドウ考ヘテモ分ラナイ、正當ノ業務ニ附隨シテ爲ス場合、是ハ條文ヲ讀變ヘルトス  
ウナル、正當ナル業務ニ附隨シテ辯護士ニ

非ザル者ガ報酬ヲ得ル目的ヲ以テ他人間ノ訴訟事件ニ關シ又ハ他人間ノ議ニ關シ代理、仲裁若ハ和解ヲ爲シ又ハ此等ノ周旋ヲ爲スコトヲ業トシ又ハ業トセザ

○木村政府委員 第一ニ御尋ニナリマシタ  
ルコトヲ得、斯ウナッテシマフ、サウナッテ  
宜シイカドウカ、斯ウ云フコトヲ伺ヒタイ

訴訟事件ト云フノハ、或ハ言葉ガ適當デナ  
イカモ知レマセヌガ、立案ノ趣旨ハ訴訟ニ  
ナツタ事件ハ勿論ノコト、訴訟ニナル前ノ事  
柄モ包含シテ居ル積リデアリマシテ、恰モ  
英佛等ニ於キマシテハ、法廷内ノ辯護士ト、  
法廷外ノ辯護士トニ通リニ分レテ居リマス  
ガ、日本ニハサウ云フ區別ガアリマセヌガ、  
其法廷外ニ於テ將來訴訟ニナリサウナ事  
件、サウ云フ事件マデモ是ハ包含シテ居ル  
ノデアリマス、ソレカラ非訟事件ノ紛議、

特ニ此非訟事件ダケ紛議ト云フ文字ヲ付ケ

マシタノハ、紛議ト云フノハ、是ハ所謂裁判所ニ訴ヘルヤウナ程度ニマデ問題ノ複雜シタ場合、斯ウ云フ意味ニ此紛議ト云フノハ使フ積リデ書イテアルノデアリマス、ソレカラ正當ノ業務ニ附隨シテ云々、是ハ色

貯蓄銀行法ノ第五條トカニ、不動產賣買ノ  
案ノ趣旨ハ、信託業法ノ第五條トカニ、或ハ  
々ノ御議論モ非公式ニ承ツテ居リマスガ、法

媒介或ハ金錢若クハ不動産ノ貸借ノ媒介其  
他貨金取立ノ代理、サウ云フコトヲ兼業ト  
シテ許シテ居ルノデアリマス、ソレデサウ  
云フモノハ矢張正當ノ業務ト認メナケレバ

ナラヌガ、ソレ等ノコトヲ取扱フ際ニ於キ  
マシテ、或ハ多少債權額ノ増減ヲスルト  
カ、辨済期ノ變更ヲスルトカ、或ハ土地家

屋ノ明渡シヲスルトカ、非常ニ争ニナレバ  
別問題デアリマスガ、多少サウ云フコトヲ  
ヤリ得ルダケノ餘地ヲ與ヘテ置カナケレ  
バ、今申シマシタヤウナ業務ノ遂行ガ困難  
デアル、ソレデサウ云フ場合ニ於テハ、或  
ハ頼マレタ人ノ代理トナツテ、辨済期限ノ多  
少ノ延期ノコトデアルトカ、或ハ少シ位ノ  
金ヲ負ケテヤルトカ、或ハ又金ヲ拂ッタトカ  
拂ハヌトカ云フ場合ニ、或ハ拂ッタデハナイ  
カ、拂ハヌヂヤナイカト云フヤウナコト位

モヤツテヤラナケレバ、サウ云フコトガ起レ  
バ直グニ又他ノ方法ヲ執ラナケレバナラヌ  
ト云フコトニナリマシテ、其正當業務ノ遂  
行スル上ニ於テ、社會ノ通念上必要ト認メ  
ラレルダケノコトハヤツテモ仕方ガナカラ  
ウ、サウ云フ意味デ此「正當ノ業務ニ附隨  
シテ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラズ」ト云フ但  
書ヲ入レタノデアリマス、ソレカラ「業ト  
スル」ト云フ文字ヲ加ヘマシタノハ、普通  
業トスルト云フコトハ、年ニ一度トカ二度  
トカヤルノハ業トスルト言フコトハ出來ナ  
イダラウト思ヒマスガ、サウ云フ所マデ取  
締ラナイデモ、實際ソレヲ常業トシテヤル  
ヤウナ場合ヲ取締レバ、此非辯護士ニ對ス  
ル弊害ノ最モ大ナル點ハ十分彈壓ガ出來ル  
デアラウ、斯ウ云フ考デ「業トスル」ト云  
フ文字ヲ附ケタノデアリマス、尙ホ足リマ  
セヌ所ハ更ニ……

蓄銀行其他ガヤリマス場合ニ於テハ、サウ云フコトモ其業務ヲヤルト同時ニ常ニ頻々トシテ起ツテ來ルデアラウ、サウスレバ矢張サウ云フ場合モ業務トスルト見ラレ得ルノデハナイカ、サウ云フ頭デ矢張此但書ヲ付ケタノデアリマス

○紅露委員 一點一寸伺ヒタイノデアリマスガ、此非辯護士取締ノ第一條ニ慥力司法省ノ案ニハ、他人間ノ非訟事件ノ紛議ニ關シテ代理鑑定仲裁トスウ入ッテ居ッタノデアリマス、昭和四年ノ第二回ノ併合案ニモ入ッテ居ッタヤウニ記憶致シマスガ、此法案ニハ代理仲裁ト、斯ウアリマシテ鑑定ト云フコトヲ除イテ居ルノデアリマス、今政府委員ノ御答辯ヲ伺ッテ見マスト、裁判所外ノコトモイカヌ、斯ウ云フヤウナコトニナリマスト、訴訟ニナリ若クハ訴訟ニナラヌモノモ、吾々ガ假ニ辯護士トシテ事件ノ委任ヲ受ケルニ致シマシテモ、先ヅ依頼者ハ鑑定ヲスルノデアリマスガ、其鑑定ガ訴訟ニナリ、或ハ仲裁ヲ爲シ、和解ヲ爲ス根據ノナイン者ガ、鑑定ダケラシテモ差支ナイト云フコトハ、此法案ヲ設ケタ趣旨ニ反スルヤウニ考ヘルノデアリマスガ、何故此法案

○木村政府委員 實ハ仰シヤル通り、初ハ鑑定ト云フ文字ガ入ツテ居リマシタ、所ガ是モ色々々ノ方面ニ可ナリ強イ反対ガアリマシテ、一體此法律ノ趣旨ハ、使ツテ宜イカ知リマセヌケレドモ、所謂三百ヲ撲滅スルト云フコトガ主デアル、三百ヲ撲滅スルト云フコトハ結局法律知識ノナイ者ガ法律事務ニ携ツテ紛議ヲ惹起ス、サウスルト宜シクナイ、斯ウ云フ意味デアル、所ガ鑑定ノ方ニナリマスト、相當ナ學識經驗ヲ備ヘタ御方々ガ鑑定ヲ爲サルト云フコトニ付テハ何等弊害ハアルマイ、若シサウ云フ人デナクシテ、所謂三百ノヤウナ人ガ鑑定ヲ爲スト言ヒマスレバ、必ズヤ其際ニ於テハ代理仲裁和解ト云フコトガ關聯シテ起ルモノデアル、鑑定バカリヤッテ金ノ取レル筈ハナイ、ソレモ今言フ非常ナ三百屋デアリマストカヽ、代理仲裁和解ヲヤルト云フ點ガ弊害ガ甚シイ、鑑定ヲヤレバ必ズソコマデ行ク、隨テ最モ弊ノ強イ代理、仲裁和解ヲ抑ヘテ置ケバ、此法案ノ趣旨トシテ居ル所ノ目的ハ十分ニ達スル、サウ云フ考デ鑑定ヲ除イタノデアリマス、左様御承知ヲ願ヒマス

同シタイト思ヒマス、先年國際労働會議ニ於キマシテ、労働者若クハ無産者ニ對シテ、法律救助ノ途ヲ開クベシトノ決議ガアッタヤニ、代表トシテ行キマシタ鈴木文治君カラ承フタコトガアッタノデアリマス、其後所謂人事法律相談所デアルトカ、法律相談所ノ下ニ若干法律救助ノ途ガ開カレテ居リマスケレドモ、未ダ日本ニハソレガ極メテ不完全デアリマス、何カソレ等ニ付キマシテ國際會議アリシヤ、又ハ其結果ト致シマシテ、社會局ト致シマシテ何カソレ等ニ關スル施設ヲセントスル所ノ御用意アリヤ、サウ云フコトニ付キマシテ伺ッテ見タイト思フノデアリマス

カト云フ、第二點ノ御質問デゴザイマシタ  
ガ、特別ニ人事相談若クハ和解仲裁、勿論  
是ハ報酬ヲ以テスルモノデハゴザイマセ  
ヌ、無料ノ無産者ノ爲メノ施設デゴザイマ  
スガ、サウ云フコトニ付キマシテ、只今特  
別ノ計畫若クハ立案ハ有ツテ居リマセヌ、但  
シ社會局ト致シマシテ獎勵致シマス各種ノ  
團體、殊ニ御承知ノ通リ隣保事業ノ範圍ノ  
一ツ致シマシテ、人事相談等ヲ取扱ッテ  
居リマスコトハ御承知ノ通リデアリマス、  
尙ホ其他方面委員制度等ニ於キマシテモ、  
多少人事相談等ノコトヲ取扱ッテ居ルノデ  
アリマスガ、全體ヲ通ジテ申上ゲラレマス  
コトハ、社會事業團體ニ關シマス範圍ハ  
——所謂法律上ノ紛議若クハ訴訟事件等ヲ  
生ジサセルヤウナ事項ニ關シマシテハ、勿  
論専門的ノ知識モ要ルノデアリマシテ、社  
會事業團體、若クハ社會事業ニ關スル範圍  
ニ於テハ、極メテ取扱フコトガ困難ト云フ  
ヤウナ實情デアリマス、隨テ社會事業團體  
ノ取扱ヒマス問題ハ、主トシテ法律事件若  
クハ訴訟上ノ紛議ト云フヤウナモノハ餘リ  
取扱ッテ居ラヌノデアリマスガ、但シ所ニ  
依リマシテハ辯護士其他法律上ノ専門知識  
團體ノ機關等ニ致シマシテ、各種ノ形ニ於キマシテ  
ヲ有タレタ方々ヲ、各種ノ形ニ於キマシテ

カト云フ、第二點ノ御質問デゴザイマシタ  
ガ、特別ニ人事相談若クハ和解仲裁、勿論  
是ハ報酬ヲ以テスルモノデハゴザイマセ  
ヌ、無料ノ無産者ノ爲メノ施設デゴザイマ  
スガ、サウ云フコトニ付キマシテ、只今特  
別ノ計畫若クハ立案ハ有ツテ居リマセヌ、但  
シ社會局ト致シマシテ獎勵致シマス各種ノ  
團體、殊ニ御承知ノ通リ隣保事業ノ範圍ノ  
一ツ致シマシテ、人事相談等ヲ取扱ッテ  
居ルノカドウカ知リマセヌガ、若シ報酬ノ  
病氣トモ言フベキ斯ウ云フコトニ關スル  
施設ヲモト完備サレンコトヲ希望シテ社  
會局當局ニ對スル質問ハ打切りマス、次ニ  
之ニ關連シテ司法當局ニ伺ヒタイノデアリ  
マスガ、警視廳ノ人事相談部ハ近時非常ニ  
利用サレテ居ルノデアリマス、又新聞社等  
ニ法律相談部ガ設ケラレテ居リマスガ、新  
聞社ノ如キハ常ニ資格ノル辯護士ヲ顧問一  
シテ、其相談ニ當ツテ居ルノデアリマス、警  
視廳ニ於キマシテハ、聞ク所ニ依リマスレ  
バ法律學ヲ修メタ人ガ大體其任ニ當ツテ居  
ラレルヤウデアリマスケレドモ、所謂辯護  
士資格ノナイ人ガ事實上仲裁和解マデヲ  
ヤッテ居ラレルサウデアリマスガ、本案通過  
ノ後ニハ將來是ハ辯護士取締ニモ關連致シ  
マシテ、斯ル警視廳ノ人事相談部、其他ノ  
警察署ノ人事相談部ノ如キモノガヤハリ資  
格アル辯護士ニ依ツテ相談ヲ受ケル、或ハ辯  
護士等ノ資格アル人ガ就任ヲ爲シテ相談ヲ

ニ委嘱シテ多少訴訟事件——極メテ輕微ナ  
ルモノデハゴザイマスガ、訴訟事件、其他  
・紛議上ノコトモ取扱ッテ居リマス、實情ダケ  
ヲ申上ゲテ置キマス

○星島委員長 近時社會局ニ於キマシテ  
モ、醫術ヤ衛生、其他ニ付キマシテハ、隨  
ノ病氣トモ言フベキ斯ウ云フコトニ關スル  
施設ガ段々殖エテ居リマスカラ、精神上  
ノ病氣トモ言フベキ斯ウ云フコトニ關スル  
施設ヲモト完備サレンコトヲ希望シテ社  
會局當局ニ對スル質問ハ打切りマス、次ニ  
之ニ關連シテ司法當局ニ伺ヒタイノデアリ  
マスガ、警視廳ノ人事相談部ハ近時非常ニ  
利用サレテ居ルノデアリマス、又新聞社等  
ニ法律相談部ガ設ケラレテ居リマスガ、新  
聞社ノ如キハ常ニ資格ノル辯護士ヲ顧問一  
シテ、其相談ニ當ツテ居ルノデアリマス、警  
視廳ニ於キマシテハ、聞ク所ニ依リマスレ  
バ法律學ヲ修メタ人ガ大體其任ニ當ツテ居  
ラレルヤウデアリマスケレドモ、所謂辯護  
士資格ノナイ人ガ事實上仲裁和解マデヲ  
ヤッテ居ラレルサウデアリマスガ、本案通過  
ノ後ニハ將來是ハ辯護士取締ニモ關連致シ  
マシテ、斯ル警視廳ノ人事相談部、其他ノ  
警察署ノ人事相談部ノ如キモノガヤハリ資  
格アル辯護士ニ依ツテ相談ヲ受ケル、或ハ辯  
護士等ノ資格アル人ガ就任ヲ爲シテ相談ヲ

ニ委嘱シテ多少訴訟事件——極メテ輕微ナ  
ルモノデハゴザイマスガ、訴訟事件、其他  
・紛議上ノコトモ取扱ッテ居リマス、實情ダケ  
ヲ申上ゲテ置キマス

○木村政府委員 警視廳ノ人事相談所ハ報  
酬ヲ得ル目的ガナインデ之ニ入ラナイト云  
ノ病氣トモ言フベキ斯ウ云フコトニ關スル  
施設ヲモト完備サレンコトヲ希望シテ社  
會局當局ニ對スル質問ハ打切りマス、次ニ  
之ニ關連シテ司法當局ニ伺ヒタイノデアリ  
マスガ、警視廳ノ人事相談部ハ近時非常ニ  
利用サレテ居ルノデアリマス、又新聞社等  
ニ法律相談部ガ設ケラレテ居リマスガ、新  
聞社ノ如キハ常ニ資格ノル辯護士ヲ顧問一  
シテ、其相談ニ當ツテ居ルノデアリマス、警  
視廳ニ於キマシテハ、聞ク所ニ依リマスレ  
バ法律學ヲ修メタ人ガ大體其任ニ當ツテ居  
ラレルヤウデアリマスケレドモ、所謂辯護  
士資格ノナイ人ガ事實上仲裁和解マデヲ  
ヤッテ居ラレルサウデアリマスガ、本案通過  
ノ後ニハ將來是ハ辯護士取締ニモ關連致シ  
マシテ、斯ル警視廳ノ人事相談部、其他ノ  
警察署ノ人事相談部ノ如キモノガヤハリ資  
格アル辯護士ニ依ツテ相談ヲ受ケル、或ハ辯  
護士等ノ資格アル人ガ就任ヲ爲シテ相談ヲ

ニ委嘱シテ多少訴訟事件——極メテ輕微ナ  
ルモノデハゴザイマスガ、訴訟事件、其他  
・紛議上ノコトモ取扱ッテ居リマス、實情ダケ  
ヲ申上ゲテ置キマス

○木村政府委員 警視廳ノ人事相談所ハ報  
酬ヲ得ル目的ガナインデ之ニ入ラナイト云  
ノ病氣トモ言フベキ斯ウ云フコトニ關スル  
施設ヲモト完備サレンコトヲ希望シテ社  
會局當局ニ對スル質問ハ打切りマス、次ニ  
之ニ關連シテ司法當局ニ伺ヒタイノデアリ  
マスガ、警視廳ノ人事相談部ハ近時非常ニ  
利用サレテ居ルノデアリマス、又新聞社等  
ニ法律相談部ガ設ケラレテ居リマスガ、新  
聞社ノ如キハ常ニ資格ノル辯護士ヲ顧問一  
シテ、其相談ニ當ツテ居ルノデアリマス、警  
視廳ニ於キマシテハ、聞ク所ニ依リマスレ  
バ法律學ヲ修メタ人ガ大體其任ニ當ツテ居  
ラレルヤウデアリマスケレドモ、所謂辯護  
士資格ノナイ人ガ事實上仲裁和解マデヲ  
ヤッテ居ラレルサウデアリマスガ、本案通過  
ノ後ニハ將來是ハ辯護士取締ニモ關連致シ  
マシテ、斯ル警視廳ノ人事相談部、其他ノ  
警察署ノ人事相談部ノ如キモノガヤハリ資  
格アル辯護士ニ依ツテ相談ヲ受ケル、或ハ辯  
護士等ノ資格アル人ガ就任ヲ爲シテ相談ヲ

受ケルト云フ點ニ對シテ御考ガアリマセウ  
カ、ナケレバソレニ對シテ十分ノ御留意ヲ  
願ヒタイト思ヒマスガ、其點ニ付キマシテ  
當局ノ御意見ヲ伺ヒタイノデアリマス  
○木村政府委員 警視廳ノ人事相談所ハ報  
酬ヲ得ル目的ガナインデ之ニ入ラナイト云  
ノ病氣トモ言フベキ斯ウ云フコトニ關スル  
施設ガ段々殖エテ居リマスカラ、精神上  
ノ病氣トモ言フベキ斯ウ云フコトニ關スル  
施設ヲモト完備サレンコトヲ希望シテ社  
會局當局ニ對スル質問ハ打切りマス、次ニ  
之ニ關連シテ司法當局ニ伺ヒタイノデアリ  
マスガ、警視廳ノ人事相談部ハ近時非常ニ  
利用サレテ居ルノデアリマス、又新聞社等  
ニ法律相談部ガ設ケラレテ居リマスガ、新  
聞社ノ如キハ常ニ資格ノル辯護士ヲ顧問一  
シテ、其相談ニ當ツテ居ルノデアリマス、警  
視廳ニ於キマシテハ、聞ク所ニ依リマスレ  
バ法律學ヲ修メタ人ガ大體其任ニ當ツテ居  
ラレルヤウデアリマスケレドモ、所謂辯護  
士資格ノナイ人ガ事實上仲裁和解マデヲ  
ヤッテ居ラレルサウデアリマスガ、本案通過  
ノ後ニハ將來是ハ辯護士取締ニモ關連致シ  
マシテ、斯ル警視廳ノ人事相談部、其他ノ  
警察署ノ人事相談部ノ如キモノガヤハリ資  
格アル辯護士ニ依ツテ相談ヲ受ケル、或ハ辯  
護士等ノ資格アル人ガ就任ヲ爲シテ相談ヲ

ト云フモノハアルニハアルノデスガ、ソレ  
ヲ特ニ除カレル必要ハナイト思フ、法律鑑  
定料ト云フモノヲ殊更ニ茲ニ公認シテヤラ  
セルト云フ結果ニナルカラ、看板ヲ掛ケテ  
ヤッテ居テモ差支ナイ、其鑑定ヲ——自然  
ニ仲裁ヲスルトカ、和解トカ云フコトヲ隱  
微ノ間ニ、現ハレナイヤウナ方法ニ依ツテヤ  
ル、ソレガ本法制定ノ趣旨デアル所ノ辯護  
士ノ職業ヲ、確保スルト云フ意味ニモ障害  
ヲ生ズルコトニナルト思フノデアリマス、  
立法ノ精神カラ言ヒマシテモ鑑定ヲ除ク理  
由ハ私ハナイト思フ、ダカラ御除キニナッタ  
ト云フコトハ、何カ辯護士ノ方ニ敵意ヲ御  
示シニナッタヤウニ解釋サレテ甚ダ面白ク  
ナイヤウニ思ヒマスガ、如何デスカ

○木村政府委員 決シテサウ云フ意味デハ  
アリマセヌガ、實際ニハ可ナリ強イ反對ガ  
角實際ニ於テ辯護士ト同等ノ知識經驗ヲ有  
スル人デアレバ宜イガ、ソレ以下ノ人ガ代  
理、仲裁、和解等ヲヤルカラ非常ナ事件ノ  
纏レヲ生ズルノデ、今申上ゲタヤウナ人ガ  
鑑定ヲヤルコトニナッテモ少シモ是ハ差支  
ナイノヂヤナイカ、是ハ或ル方面ニサウ云  
フ反對ガアレバ、サウ云フ點ヲ突込マレル  
ニ於テモ困リバシナイト思ヒマス、此三ツ

ノ點ヲ抑ヘレバ所謂サウ云フ知識ナキ人ノ鑑定業ト云フモノハ十分取締ガ附カウカト思ハレマス、決シテ辯護士ニ對スル敵意ト云フモノハアリマセヌカラ、左様御承知ヲ願ヒマス

○紅露委員 其鑑定ニ付テモウ一遍伺ヒタイノデアリマスガ、私共モ一寸知ッテ居リマスガ、或ル大學ノ教授デ、非常ナ鑑定料ヲ取フテ鑑定ヲシテ居ル人ガ二三アリマスガ、今政府委員ノ御答辯ヲ伺ッテ居リマスガ、非辯護士デアルカラ之ヲ禁ズル、知識階級ノ者デアルカラ、辯護士以上ノ鑑定料ヲ取り、ソレヲ業トシテ居ル人ガアッテモ之ヲ見逃スト云フコトハ、非辯護士ヲ取締ル此法律ヲ持ヘルヤウニナッタコトニ反シナイト云フヤウニ伺ヒマシタガ、苟モ辯護士法ヲ制定シテ非辯護士ヲ取締ル以上ハ、知識アリ或ハ地位ガアッテモ、辯護士法ヲ制定スル建前カラ行キマシテ、禁ジタ方ガ宜イ、斯ウ思フ、要スルニ政府委員ノ御答辯ニ依リマスト、一寸今申シマシタ大學ノ教授ガ、實ニ莫大ナ鑑定料ヲ取フテ、鑑定スルコトヲ業トシテ居ル者ヲ公認スル、サウ云フ結果ニナルト思フノデアリマス、其點ノ御意見ハ如何デナリマスカ

○木村政府委員 囊ニ申上ゲタヤウニ、何

故斯ウ云フ非辯護士ノ取締ヲ致シマスカト申シマスト、知識、經驗モナキニ拘ラズ、訴訟事件、或ハ非訟事件ニ付テ代理、仲裁、和解等ヲ爲ス、其弊害ガ酷イト思ヒマスカラ取締ルノガ趣旨デアリマス、隨テ今仰セニナッタヤウナ所ハ其方面カラ見マスト民事ノ権利關係ニハ弊害ガナイト云フ見方デ立案サレタモノデアリマスカラ、此法案トシテ其鑑定ヲ除イタ趣旨ハ、結局今申上げタヤウナコトニ歸著スルノデアリマス○紅露委員 ソレハ其程度ニ止メテ置キマス、次ニ二十六條ニ付テ御伺致シマスガ、法人ノ役員ニナルコトガ出來ヌトアリマス、承リマスト、商法ノ改正ガ司法省デ行ハレテ居ルヤウデアリマスガ、其改正案ト相容レナイヤウニ思フ、法人ノ役員ト云フコトニナリマスト、監査役ニモ當然ナレヌコトニナルト思ハレマスガ、監査役ハ御許シタ際ニ於テハ、ヤハリ非辯護士ノ營業ヲ認ムルヤウニ規定ナシテ居タ、之ニ對シハ猛烈ナ御反対ガアリマシテ、認ムリマス、三ツノ事項ニ關シテハ徹底的ニ取締テ行キタイ、苟モ之ヲ潛グルヤウナ方法ヲ案出スレバ案出スルニ從ツテ、之ヲ彈壓シテ行キタイサウ云フ強キ考ヲ有ツテ居リマス爲ニ、之ヲ別ノ法案ニ致シタヤウナ次第デアリマス

○木村政府委員 寅々ハ辯護士ノ職務ノ範圍内ニ於テハ、他ノ非辯護士ノ之ヲ業トスルコトヲ認メナイ、斯フ云フ建前デ丁度辯護士ノ職務ヲ規定シタ裏面ヲ此三百ノ取締ノ理由ヲ御伺シタイ

○木村政府委員 實ハ只今改正案ノ條項ヲ能ク承知シテ居リマセヌガ、結局是ハ辯護士會ノ許可ノ有無ニ依テ、何ニデモナレル、隨テサウ云フ場合ニ於テハ仰ツシヤルヤウニ何等弊害ノナイモノデアリマスナラバ、辯護士會ハドンヽ許可スルデアラウ、ソコデサウ云フ點ニ付テハ辯護士會ノ裁量ラ取締ルノガ趣旨デアリマス、隨テ今仰セニナッタヤウナ所ハ其方面カラ見マスト民マス○小野寺委員 此二ツノ法案ヲ一ツニ爲ス、タラドウカト云フ意見ヲ大分有ツテ居リマスガ、是ハ立法ノ沿革カラ言ヒマシテモ、從來ハズット一ツニヤッテ居ツタノヲ、此前ノ頃カラ案ガ二ツニ分レルヤウニナッテ來タヤウデアリマスガ一緒ニスルノガ一番本式デハナイカト思フノデスガ、ドウデアリマスカ

○木村政府委員 午前中ニ大臣カラ詳細申

類ノ違フ三百ト稱シテ、非議スルヤウナ人間ヲ取締ル規定ヲ一ツニ設ケルト云フコトハ體裁上甚ダ宜シクナカラウト云フ感ジガ一番強カッタノデアリマス、モウ一ツハ此取締デ抑ヘント欲スル者ガ、申上ゲテ宜イカドウカ知レマセヌガ、兎ニ角所謂三百ト云フヤウナ人デアリマスカラ、如何ニ法案ヲ作ル際ニ腦漿ヲ絞ッテ考ヘテ見テモ、又何處ニカ拔道ガ出テ來ヤシナイカ、サウ云フ場合ニ於テハ又其拔道ヲ押ヘテ行クト云フコトガ必要デアリマス、サウ云フ考デシマスレバ、之ヲ辯護士法ノ内容ニ規定シテ置クト、其事ガ中々容易ニ行ハレナイ、斯ウ云フ考ガアッタノデス、苟モ司法省ガ此取締規定ヲ出シマシタ以上ハ、茲ニ書イテアリマス、三ツノ事項ニ關シテハ徹底的ニ取締テ行キタイ、苟モ之ヲ潛グルヤウナ方法ヲ案出スレバ案出スルニ從ツテ、之ヲ彈壓シテ行キタイサウ云フ強キ考ヲ有ツテ居リマス爲ニ、之ヲ別ノ法案ニ致シタヤウナ次第デアリマス

○小野寺委員 吾々ハ辯護士ノ職務ノ範圍内ニ於テハ、他ノ非辯護士ノ之ヲ業トスルコトヲ認メナイ、斯フ云フ建前デ丁度辯護士ノ職務ヲ規定シタ裏面ヲ此三百ノ取締ノ

